
のたばねえがこんなに可愛い...に決まってるだろ？（【体験版】+【正規版】同梱パック仕様）

暮灘雪夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺のたばねえがこんなに可愛い……に決まってるだろ？（【体験

版】 + 【正規版】 同梱パック仕様）

【Zコード】

Z6747X

【作者名】

暮灘雪夜

【あらすじ】

「俺はただ守りたいんだ……束ねえに悲しい涙を流させる全てから

…

だから少年は、その身に最先端科学で作られた甲冑を纏う事を決め…

「だから、俺は…」

剣を握り、

「全ての歪みを正す……」

安楽の園から、策謀渦巻く青き星へと舞い戻る！－！

この物語は…

一人の愛しい女性を守る為に甲冑を纏ひ覚悟を決めた一人の少年の、成長と戦いの記録である！

嘘です m(—)m

いや～、最近妙に幻覚じみたI-Sの【脳内動画（笑）】が回るので、勢いだけで書いてしまいました（^_^；

基本的に、

ヒーロー いつくん改憲式

ヒロイン 束ねえカスタム

でお送りします

束ねえは、【別作品からの転生者】という、かなりトリックキーなキヤラで、いつくんは妙に飄々として淡々として…壊れてます（笑）

【正規版】からは、1st幼馴染みではなく、”ダークネス・2nd

“ヒロイン（！？）”も参戦し、更にカオスな方向へ…

そんな作品ですが、お付き合い頂ければ幸いです（・_・――^A

追伸

皆様のご声援が後押しとなり、ついに【体験版】+【正規版】同梱パック仕様）になりました！

この場を借りて厚く御礼を申し上げると共に、これからもどうかよろしくお願い致しますm(_ _)m

【体験版】プロローグ・"・その時、確かに宇宙（やら）から白い天使

皆様、こんにちはー

この度、【俺束】に関心をもって頂きありがとうございます（――）

作者の暮灘雪夜と申します（――）

プロローグなのに、いきなり束ねえの正体が8割バレます（笑）
かなり短いですが、プロローグといつ事でご容赦を（^ ^ ;
一応、束ねえの可愛さとメイン・ヒロインの所以は詰め込んだつもりですが、果たして…

【体験版】プロローグ："その時、確かに宇宙（そら）から白い天使

唐突だけど、俺は誘拐されていた。

カビ臭い空氣から察するに、恐らく何処かの廃墟だろう。

理由は、まあ想像はつく。

（千冬姉の連續優勝を、どうしても阻止したい連中がいるって事か
…）

ISの登場以来、実質的に文字通りの“世界最強”を決める大会と
して開催されるよつになった”モンド・グロッソ”…

千冬姉は、その第1回大会で優勝している。

連續優勝なんかしたら、商売上がつたり…って輩も多いんだがつ。

（つて事は、犯人は何処かの軍産かな…）

千冬姉のISは、“束ねえ（たばねえ）”…千冬姉の親友で、俺の
初恋の人でもある篠ノ之東お手製のIS【暮桜】だ。

いくら束ねえが天才とはいえ、個人が作った機体に捻られるようじ
や、ここ数年軍需産業は「昼寝でもしていたのか?」「税金の無駄
遣い」と世論に表され、国民からの圧力で政府からの開発資金の大

幅減額は避けられないだろ？。

非法武装組織にヤバい橋を渡つてまで売るんじゃなければ、基本的に兵器関連の売り先は、軍や警察なんかの政府関係武装許可組織しかない。

IISの登場で全ての兵器（少なくとも戦術レベルの兵器）を時代遅れの遺物に変わった今となつては、まともなドル箱になるのは、やはりIISしかない。

（そりや、何処の軍産も優勝田指して必死にもなるよなあ～）

まあ、人質は生きてないと意味は無いから、コンクリ製の靴履かされて東京湾の奥底で、ヘドロや魚と仲良しになら……って可能性は最初から無いと思つてたけど。

（誘拐 監禁 放置プレイつて事は、割と良心的な組織だな…）

うん。

どうやら、純粋に千冬姉の連續優勝を阻止したいだけなんだら。

妙な薬物注射されたり飲まされた形跡はないし、体をいじられた様子もない。

えつ？

なんでそんな暢気なかつて？

身内がIIS界の最高峰なんだから、このぐらには想定内ですから！

それになまじ考えてビリもならないなら、いつそ心落ち着かせて

相手に付け入るチャンスを待つ方がよほど建設的だろ？

（とりあえず、相手を見極めないとな…）

祈るとすれば、俺を拐った連中の中に、トチ狂ったモーホーがいませんように…ってぐらいだ。

そんなどうでもいいことを考えてると…

『ディバアイイイン…』

それはどこか聞き覚えのある声で…

『バスターアア――ツ！…』

桜色の光柱が天井を突き抜け、俺のすぐそばの床さえも撃ち抜き、地下への一本道を作る。

本来なら恐怖する威力…あるいは、シーンかもしれないけど…

（ただ、もう一度と見れないと思っていた顔が見れた事が嬉しくて…）

また会えた事がただ嬉しくて…

ぽつかりと抜けた天井から見える青空…

俺、織斑一夏おりむら・いちかは、確かに白き衣を身に纏う天使を見たんだ…

* * * * *

「大丈夫…？ いつくん…」

舞い降りた天使は、そう心配そうに俺の顔を覗きここんでくる。

自分が上手く微笑めてるか自信はない。

姉と同じく、俺も無愛想な方だし。

俺にかけられた戒めを解くと、そつと俺を抱きしめて…

「『めんね…いつくん…いつくんまで私に巻き込んで…』
『めんね…いつくん…いつくんまで私に巻き込んで…』

その天使は、子供のみづて泣きじゅくつた。

「許してなんて…言えないよね…」

確かに許せない。

俺を拐つた事は、気にしてもらいない。

だけど、俺を拐つた結果、この娘を泣かした連中が…何より俺が許せなかつた。

でも、今の俺にできるのは…

「もう泣かないで…ね？」 束ねえ

「いつくん…？」

俺は、初恋の人の背をいつの間にか追い越してしまつた事に素直な喜びを感じながら、

「束ねえ…悲しい涙は流しちゃ駄目だよ？ 俺はこの通りピンポン

してるからさ！」

束ねえを抱き締め返した。

(束ねえ…いろんなに小さかつたんだ…)

相対的なサイズ関係は変わつてしまつたけど、

(それでも変わらない物もある…)

シャンパーのいい匂いがする桜色の髪へて柔らかい髪も…

少し垂れた優しそうな瞳も…

実は凄く泣き虫などいひも…

本当にほんとうなこと、これとなつたら運氣を振り絞るといひや…

やじてやうとい、

(こつも才能に振り回されて、生き方が不器用なといひや…)

だから、いひやおひ。

「束ねえ…また会えたね…」

「こつぐん…！」

束ねえが世界中のお尋ね者になり、俺の前から姿を消してから…

あの時に錆び付いた俺の心の中の時計が、微かに…でもまづきつと
再び動き出した事を、俺は確かに感じていた。

* * * * *

「やつこや、束ねえが」ことひるひて事は…千冬姉は?」

「なんの番狂わせもないで、あつさり連霸したよ~」

わざまで泣いてたカラスがなんとやら。

まあ、こんな風に表情が口口口口めまぐるしく変わるのも、束ねえの可愛」と二だ

「私がいつくんを助けにいくつて言つたら、ちーちゃん『そつか…頼んだ』って言つてくれたんだあ~」

束ねえはテヘヘッ と笑うと、

「私、嬉しかったんだあ…ちーちゃん、こんな私でもまだ信じてくれるんだつて…」

千冬姉が世界で一番信頼してる人間つて、多分…いや、間違いなく束ねえだと思うよ?

(千冬姉が微笑みながら『大馬鹿』って言つの束ねえだけだし)

多分、その次が俺…だといいなあ。

「ねえ、いつくん…」

「なに?」

束ねえは真剣な顔をすると、

「 もひね…地上に ” 本当に安全な場所 ” って、もひ無いかもしだ
い… 」

「 だひうね 」

「 本当に”めんね”私が工うなんか作ったから…ちーちゃんも、い
つくんも… 」

「いや、そんなことないよ。そもそも、試験飛行中の”白騎士”を
トレースされた時だつて、千冬姉だつて致命的なミスしてゐわけだ
し 」

「でも、私がコアをばらまいてやつたから… 」

あ～もう一…

「あの時、もし束ねえが400個以上のコアを世界中に振り分けな
ければ、たつた一つのコアの奪い合いで、あの時点で第三次世界大
戦が起きてたつて！」

俺に言わせれば、もつとコアを寄越せつて束ねえを追い掛け回して
る世界の方が問題あるよ。

「 いっくん… 」

束ねえは少し顔を赤らめて、

「でも、やっぱり私の責任なんだよ… 」

あつ、またうつ向いてる。

「だから…」

おつ、復活

「その…こつくんが良かつたらなんだけば…」

束ねえは急にモジモジかねと、

「束さんと、一緒に暮らさないかなあ…って…ほ、ほり…あるから、地上よつは【安全だし…】」
宇宙エウジョウに

誘拐犯サマ、心から感謝します。

お礼に黒幕見つけたも、命^{めい}にすこよつな死に方だけは勘弁してやる。

俺は束ねえを抱き締め直すと、

「是非…！」

忘れようとしてた

想いが今

動き出す

錆び付いた時計に

油を落として

止まつた時を

進めてみよう

【体験版】プロローグ・"・その時、確かに宇宙（やら）から白い天使

皆様、”じ愛読ありがと”いたしましたm（—）m

どうやら束ねえの中の人は、”誰もが知る管理局の白き魔王さま（笑）”とは厳密には違う臭いです。

例えるなら、NaNoNaさんではなく、”なのちゃん”がそのまま大きくなっちゃったような？

束ねえの中味（笑）がかけるぐらい話が書ければいいなあ～と思つてゐ暮灘です（^ ^ ;

実は、ディバアイイイン・バスター アア――ツ――の天井貫きは、スバルのヒピソードのパロディだつたりして（笑）

次回、いつくんがとんでもないことに…？

それでは、またお会いできる事を祈つて（—）

【体験版】第1話 "兎は近い過去の夢を見て、遠い世界に思いを馳せ

皆様、こんばんわー

”俺束“の作者の暮灘です（――）

いや、その皆様のあまりの反響の大きさに、作者正直驚いてます（驚！）

それで、その…

勢いに押されて、短いですがあれから1話書けてしましました（^；

超不定期更新といつのは、早まる事もあるって事で”容赦を（――）

あと、ご感想の返信はアップ後にしますので、よろしくお願ひします。

そんな理由で予定は少し変わり、前半は俺束版の”白騎士事件“の
真実。

千冬姉と”相棒“が大暴れします（笑）

後半は、束ねえの正体の95%以上が分かるエピソードです(・_・)

| ^ A

なんかネタ満載ですが、楽しんで頂くと同時に束ねえの可憐さを感じて貰えれば幸いです(○^_^;)b

【体験版】第1話 "兎は近い過去の夢を見て、遠い世界に思いを馳

夢…

夢を見ていた…

それは、遠いよつてこ最近のよつな氣がする出来事…

数年前…

太平洋上空某所

「ちーちゃん、大変大変たいへんだよ！ アクティブ・ステルス
にエラーが発生してる！ ちーちゃんの姿、レーダーとかに丸見え
で、ずっとトレースされてたみたいなんだよ～っ！！」

私が大慌てで魔力通信を繋いだ先にいる親友、ちーちゃんと織斑
千冬ちゃんは、何故かのんびりとしたように聞こえる声で、

『そつ慌てるな束。さつきから武装解除と投降を呼び掛けられてる
からな…状況は把握してる』

そして、ちーちゃんはクックツつて小さく笑うと、

『それにしても、第7艦隊総出で仕掛けてくるとは…ヤンキーも中々歓迎つてのがわかつてると思わないか？』“レーヴァテイン”『

『”J-a・重力制御に慣性制御：未知の技術を人間サイズにまとめ、単独での宇宙空間飛行に大気圏突入、大気圏内の超音速巡回まで魅せたのです。きっと人工国家の住人にとっては、喉から手が出るほど欲しいのでしょうか”』

『フン…そこまで世界唯一無二の軍事大国でいたい、か？だからと言つて、むざむざ束の技術の結晶をくれてやる義理はない。どう？』

「ほえつ！？ちーちゃん何を言つて…」

『”当然ですマスター。アーク・マスター（創造主）の技術を、誰も頼んでないのに世界の警察を自称する下品な輩に、わざわざくれてやる必要はありません”』

「ちよつ！？ レーヴァテインまで何を言つてゐのあ～つ！？」

『フフン。いい返答だな？ならば、我が愛劍よ…取るべき手立ては一つだと思わんか？』

『”もちろんです！”』

(も、もしかしてレーヴァテインのインテリジェンス・ゴニット、シグさんの人格を参考にしたの失敗だったのかにや…?)

『『降りかかる火の粉は払うのみつ！！』』

「ちよりとおー!? ちーちゃんー!? レーヴァティーンー!」

あ
ん
！

「ちよつと待つて！ 今、艦隊の指揮統制システムをハッキングするから、その隙に…」

『やめておけ、束。魔力通信ならいざ知らず、物理回線への干渉は必ず逆探される…ヤンキーは、残念だがその手のシステムに長けてるのさ』

『”【アクシズ】が稼働状態に無い以上、アーチ・マスターの居所を探知されるのは、得策ではありません”』

『という訳だ。レーヴァテイン！ せつかくの実戦テストだ……とつておきを使うぞー!』

『マスター！ その言葉を待っていました！』
トリッジ【ロードー！】

「それらぬえ～～～っ！－！まだテストも終わつたないよお～つ！」

『何を言つてるんだ、束？だから今、テストするんだろう?』

『”その通りです、マスター。エネルギー、フルチャージ完了！』

『フフ…征くぞレーヴァテイン…！』

『”ヤ・ボール…！…』

その日、たった1機の…世界で初めて確認されたIS “白騎士”と一振りの炎の魔剣”レーヴァテイン”の前に、世界最強を自負していた米国第7艦隊は、為す術もなく壊滅した…

世に言つ【白騎士事件】である。

この事件により、世界の軍事バランスは急速に崩れ初め、誰もが”未知の兵器IS”に注目するようになる…

篠之ノ束が望む望まざしに關わらず…

『マスター、そろそろ起床の時間です』

私は、うつらうつらしていた意識が、ゆっくり現実に引き戻されるのを感じていた。

(なんだか、懐かしい夢みしあつたなあ……)

あれが、全ての始まりだったのかな……？

「おはよっ。」レイジング・ハート」「

私は、ビー玉サイズの赤いオーブ（魔導結晶球体）に話かける。

『おはようございます。マスター』

”レイジング・ハート”：

私が生まれた時に握っていた”赤いビー玉”……
そして、

(私と一緒に、”あの世界”から流された長年のパートナー……)

全てのHISの”原典”…

「ねえ、レイジングハート…」

『なんじょいへ。』

「もしかして、ちーちゃんにHISを渡したの、間違ってたのかな…。
私が、EISなんか渡さなければ、ちーちゃんもいつくん、ほーきち
やんも…みんな、こんな事にならなかつたのかな？」

『いえ。フロイライン・チフコの場合、イチカが常々言つてゐよう
に、元々の性格です。』

「ちーちゃんが身も蓋もないなあ～（汗）

『マスターが『自分を責めるのせ、筋違こと言わせられません』

「でも…」

『マスターは常に最善と想われる手段を取つてした事は、常にござ
見ていた私が証明します』

「なら、どうしていつもやったんだ？」

『世界は、こんな感じじゃなかつた事ばかりだ…』

「あはは クロノ君の決め台詞だね？」

なんだか、凄く凄く懐かしい…

(もう、 ”別の世界の出来事” のに…)

私の中では繋がった記憶で…

「クロノ君、元気かな… キヤロナセヒト、相変わらずアラブな
のかな?」

『おそれらぐ。クロノ隊長は筋金入りの”真性”で、キヤロ殿はあれ
以上大きくならない生き物ですから』

れ、レイジングハート…

相変わらず容赦ないなあ～（汗）

「じゃあ、まだ一人とも虎型の機動兵器と龍型の機動兵器に乗つて、
合体しながら前線で頑張ってるのかな…」

クロノ君、『魔導炉で動いてるから問題無いー』って言つたけど、
あのロストロギアって絶対に質量兵器だよね?

（だつて、”聖王のゆりか”の上に乗つかつて、薙刀やヌンチャ
クでドツキ回してたし…）

”J事件”かあ…

「スカちゃんとか、今頃どうしてるだろ…」

『マスター… 我々は、おそれらぐあの世界に戻れません』

「やつ…だね」

『ならば貴女は、時空管理局魔導兵器開発部「バイス・ウエポン・チーフ・エンジニア”高町なのは”ではなく、IS開発者”篠之ノ束”として生きるべきです』

「うそ… ありがとう。レイジングハート…」

『どういたしまして。それに今のマスターには、決して戻れない世界に想いを馳せるより先にやるべき事があるでしょう?』

「えつと…」

『イチカの為に朝食を用意する事。古今東西、意中の男を射止める秘訣は”胃袋を支配する”です。これは元の世界でも、こちらの世界でも不变の真理ですから』

「れれれれれ、レイジングハートおつー?」

『昨晚”も”あれだけ淫ら…もとい。乱れ咲きしておいて、今更その反応は無いのでは?』

「レイジングハートのばかあ～～～～！」

こつこつ、かつて【高町なのは】と呼ばれ、今は【篠之ノ束】と呼ばれる少女(?)の朝は過ぎて行くのだった。

【体験版】第1話 "兎は近い過去の夢を見て、遠い世界に思いを馳

皆様、「J愛読と沢山の「J感想」と「反響」を、本当にありがとうございます（――）

今回は、束ねえの一人視点で、”一緒に別の世界から流されたレイジングハート”との二人（？）語りとなりました。

いつくんファンの方、すみません（^ ^ ;

次回こそは必ず！

お気付きの方は多いかもしませんが、【クロキヤロ（笑）】は、超機人大戦における中の人ネタですね（・^__^・ A

「クスハ！」

「ブリットくんっ！」

つてノリで、活躍してたんでしょう。

【ボルテール＝龍王機】つて感じで。

フリードはサブパイ扱いで、精神コマンドとか持つてそう（笑）

アイデア（脳内動画）が固まれば、また書いつと 思いますので、そ
の時はどうかお願い致します。m(—)m

【体験版】第2話 "・ナノマシン使いは希望の星にて鬼の料理を食す

皆様、こんにちわー

いつもべつたりな暮灘です（^ ^ ;

勢いに身を任せ、出来てしまつた第2話です（^ _ ^ ;）

前半は、う~ん…ネタですね（笑）

というか、束ねえの中の人の生まれた世界ではなく、時代を特定で
きるのと、現在の束ねえの隠れ家が分かれます。

後半は、ついに我らがヒーロー（笑）のいつくん再登場

ついでに”相棒”も判明するし、文字通りの”魔改造”、更には束
ねえの料理の腕（笑）とかも公表されます。

なんかラストは原作と同じ程度に「リア充、爆発しろ！」的な展開
がありますが…

いつくん、人間の二大（あるいは三大）欲求に素直だなつと（o^
- ,) b

追伸

そういうえば、俺束の原型になつた話（本放送の時に妄想）つてのが

あつて…

束ねえが一人じや寂しく（共犯者が欲しく）なつて一夏を拉致（笑）、まあ束のとこにいるなら身柄は安全（？）だらうって事で千冬は黙認。

んで、第2回大会に”チームTABANE（笑）”の代表として乱入…なんて話を考えましたつけ（＾＾；

うる覚えですが、この時にドイツ・チームの世話になつたのと、”なんちやつて千冬姉システム”の調査の為にドイツ入りしてえ～みたいな展開（確かせつしーともこの時エンカウントしてたよつな？）で…

んで、表向き本国命令（本当は束ねえからの指示）でIIS学園に入学（潜入）、んで原作よりややハード（主に性的な意味？）展開で、一夏恋しさに追い掛けてきたラウラが両手両足の一夏見てブチ切れん…

なんて話ですが、需要があるなら俺束が一段落ついたら、とりあえず体験版を書いてみましょ～うか？（＾＾；

会話サンプル（笑）

第

「お前と私が同室なのは姉さんの配慮だ。わかるだろ？」

セツシー

「ううして一夏様にIIS学園で再会できるなんて、乙女座のわたくしとしては、センチメンタルな運命を感じてしま～ますわ」

りんりん

「中華は世界最高峰よ？ 料理の味も女の味もね」

シャル（男装時）

「イチカ…男の娘つて好き？」

ラウラ

「イチカ！ お前の安住の地はドイツにしかないと知れつ！…！」

前書きで何を書いてるんだか（笑）

皆さんは、”アクシズ”と聞くと、何を連想するだろつか？

シャア？

ハマーン？

サザビー？

キュベレイ？

ちなみに作者はジオースト寄りだ（笑）

では、篠之ノ束に聞いたら、何と答えるだろ？

それは多分、誰も予想しない答え…

「”希望”…だよ」

その意味は、篠之ノ束の中の人（？）

かつて”高町なのは”と呼ばれた少女の生い立ちを振り返らなければなるまい。

高町なのはが生まれたのは、

【宇宙歴（U.C） 0201年】

つまり、”ブリティッシュ作戦”の後に無理な地上降下作戦を行わず、持てる戦力をオデッサではなく混乱するルナツーに向けて占領。完全に制宙権を手に入れた後、月面に設置したマス・ドライバー（通称”ギガノス砲”）で大規模質量を射出、地球にガミラスじみた【戦略砲撃】を加え連邦を疲弊させた後、最終曲面でソーラーレイによる”ピンポイント砲撃”でジャブローを焼き払い、ジオンが勝利した”一年半戦争”の約120年後に生まれた女の子だ。

建国の父であるジオン・ズム・ダイクン、戦後すぐに激務による心臓麻痺で倒れた彼の後釜となつたギレン・ザビ（ジオン”共和国”総軍最高司令官のデギンは、戦後すぐに引退していた）、そして一年半戦争の英雄であるキャスバル・レム・ダイクン、ジオン最初の女性首相であるミネバ・ザビと続いたジオンの系譜は、人類の宇宙への拡散を急速に促した。

金星や火星のテラ・フォーミング等はその顕著な例であろう。

それは、後方の軍需基地兼兵器工場であり、万が一にもジオン本国が陥落した場合の拠点として計画された”アクシズ”も例外ではなかつた。

戦中は存在を隠蔽されてたアクシズは、戦後、太陽系外縁開発の最重要拠点として大々的に発表され、大型宇宙船の建造や整備を行う大規模宇宙港として発展した。

それは、既に地球人類がバーナード星系を皮切りに他星系に進出し、自らの領土としていた…そんな時代、なのはが生まれた時代もそれは変わらず、太陽系最大級の宇宙港として機能していた。

なのはは…いや、束は中学の修学旅行で行つたアクシズの風景を、未だに忘れられないでいた。

胸を張り、意氣揚々と外宇宙へ旅立つ人達や出入りする堂々とした宇宙船を見た感動を…

この頃のなのはは、既に管理局と接触していたが、それでも【魔法に頼らず科学だけでここまで至つた】事に素直に感動した。

であるならば、本来なら亞空間に漂つてゐる筈の”それ”…

別の世界なら”時の庭園”と呼ばれていたそれを三次元に引っ張り出し、アステロイド・ベルトに定着させた時、”アクシズ”と名付けても、何の不思議もなかつた。

アクシズは、篠之ノ束の…かつて高町なのはと呼ばれた少女の”希望の象徴”なのだから…

等と壮大なスペース・オペラ風に書いてみたが、今の篠之ノ束ともう一人の住人にとっては、安心して寝食できる場所というだけで、十分な意味があつたが。

「ふんふんふん よつと」

鼻歌混じりにステーキのように厚切りのベーコンをフライパンの上でひっくり返す束。

その手つきは、流石に人気喫茶店の娘（なのはだつた頃は、だが）という出自だけあり、実に慣れている。

そもそも千冬とのなれ初めも、いつも購買のパンばかりだった千冬に見かねた束が、弁当を作つていつた事に始まる。

”アクシズの同居人”に言わせれば、

「千冬姉は、束ねえに餌付けされたようなもんだな」

まあ、これを本人に面と向かつて言えば、少々【生まれてきてご免なさい】的な目に合うこと請け合いだが（笑）

あつ、勿論こんなヘヴィな朝食は束ではなく、もうすぐ起きてくるだろう同居人の為の物だ。

そして、もう年単位一緒に暮らしそつかり聞き慣れた足音に束は振り返り、

「おっはよ いっくん」

「おはよ～、束ねえ～」

と、気の抜けた返事を返したのは、この2年間で見違えるほど遡しく、また精悍になって…とは、この寝惚けた様子からは言えない我らがヒーロー（笑）、織斑一夏である。

いや、眠れうとうといつも寝る…

「なんか、お腹ペコペコって感じだね？」

「束ねえ、正解。実は”ブレハ”に頼んで、睡眠中も戦闘シミュレーションしてた」

テヘヘッ と笑う一夏に、束は「怒ったぞおー」という感じで、オタマを持ちながら両手を腰に当て、

「もうひーー また無茶してえーっ…”ブレイブハート”もちゃんと止めないと駄目じゃなーいっ！」

すると、一夏の右手に”ベルトイン（一体化）”されているガントレットから、

『それがマスターの望みですから。』力が欲しいか？ ならばくれてやる”が、我らがバイスの本質です』

ヲイヲイ… デジのARM'Sだよ? とシツコみたくなる返事を返したのは、

『遅ればせながら、おはよひびきります。アーク・マスター、”お姉様”』

「おはよ ブレイブハート」

『おはよ。我が妹よ』

インテリジェンス・デバイス【ブレイブハート】

レイジングハートから直接、”株分け”された一夏専用デバイスだ。
特徴は、いわゆる”バラサイト・タイプ寄生型”と呼ばれる、マスターの肉体と一体化して機能する事だ。

また、パラサイトと待機状態でも他のデバイスより大きなボディ故に、実に膨大な演算能力と、マスターとの高いシンクロ・レートを誇る。

その能力や必然は、そのつけ語られるだひつ…いや、多分（汗）

「おつ！ 相変わらずひつまそおつー！」

束特性のスペイスが効いた厚切りベーコンに、焼きたてのベーグル、いかにも新鮮そうな野菜とエビを使ったシユリンプ・サラダに甘い香りの湯気が食欲を掻き立てるローン・ポタージュ…

「どうやら全てお手製で、束の料理スキルは全登場キャラ（笑）の中でも頭一つ抜き出でそうだ。

お菓子作りが趣味だった”なのは時代”の経験も生かされてるみたいだし

別に一夏じゃなくても、これだけで嫁に欲しくなるなあ…

「ほんじゃあ、いっただきま～す！」

「どうぞ召し上がれ」「

「それにしても、相変わらず凄い食べっぷりだねえ／＼作ってる束さんとしては嬉しくなつちゃうけど」

「寝てる間も”副脳”や全身のナノマシンぶん回してるから、腹減つて腹減つて…ナノマシンつて、ほんと燃費悪いよな？」

束はクスクス笑うと、

「ナノマシン入れてる人って、みんなそれ言つよ～」

一夏の体内には、実は大量のナノマシンが注入されてこる。

それも、今頃千冬恋しさにもんもんしてただらうティッシュの黒ウサギ（小）とは比べ物にならない程の量を、だ。

もし比べるとするなら、黒ウサギ（小）より劇場版ナデシコの天河アキトの方が適切だらう。

実は、ブレイブハートの重要な機能の一つに”体内ナノマシンの積^{アク}極的制御”^{タイプ・コントロール}が含まれていた。

もつとも、ナノマシンといつても地上で作られてる”中途半端な紛い物”ではなく、束が丹精を込めて精製し、レイジングハートとブレイブハートが細心の注意を払い段階的投与をした、全く次元の違う代物ではあるよつだが…

「うひそりやま～」

「お粗末さまでした」

あるだけの食事をペロリと食べて満足げな一夏。

束はそれを見て、嬉しそうに微笑む。

そして、やがてキッチンから流れてくるリズミカルに皿を洗う音と、可愛らしい鼻歌…

「……」

一夏はフリフリと何かに引き寄せられるよつに立ち上がると、束の背

後に素早く回り、

”ギュウツ”

「い、いつくん！？」

「まだ少し食べたりない…」

「え？と…じゃあ、デザートを」

「めいんでいっしょ、まだたべてない

”じゅつ… びりびり…”

「あの…、いつくん…」

「なに？」

「なんで私、床に押し倒されて、お洋服びりびりに破かれてるのか
なあ～って…」

「ん～？ メインディッシュの”鬼料理”を食べよつとしてるだけ
だけど？」

「みやあ～～～つー！ 私、食べ物じゃないよお～つー！」

しかし、一夏は一ヶ口笑い、

「束ねえは、俺ことつて一番の”駄走だから…じゃあ、いただきま
す”

「食べちゃうめええ～～～つーー！ ひゃこつー！」

『『So Sweet』』

と最後に、レイハ&ブルハ姉妹の声が重なった。

織斑一夏…

この2年間で、随分と”自分に正直”になりましたとや

【体験版】第2話 "・ナノマシン使いは希望の星にて鬼の料理を食す

皆様、いじ愛読ありがとうございましたm(—)m

本当に脳内動画を再生しただけのパイロット版なのに、こんなに反響を頂けるとは感謝感謝です(—)

これで、束ねえの秘密は98%くらい公開でしょうか?(笑)

それにしても、いっくんマジケダモノ(へへ;

読者様の反応が怖いですが、これも仕様つて事で納得して頂ければなあ～と。

デバイスとナノマシン強化でチート化(笑)したいっくんは、果たしてどこに逝くのか?

また文書がまとまれば投稿します

それでは、またお会いできる事を祈りつつ(—)

【体験版】第3話 & パート・こわれたいいくとこわされたたまちゅん&

皆様、こんばんわー

深夜アップになってしまい、焦り氣味の暮灘です(へへ；

とこりが、やはじ一田じく本アップはキツイなあ～(汗)

ま、まあでも今回の内容は、ある意味地方局の深夜アニメ枠っぽい
内容だからありかなつと(へへ；

とつあえず、今回で【束ねえの秘密(笑)】は、ほほコンピュート
です(。。へへ；)

そして、中身は…サブタイ通りです(汗)

ちなみに元ネタは、【電波青春】の作者サマのデビュー作だつたり
して(へへ；

念のために【微】注意(笑)】と表記しつつ、お楽しみ頂ければ
幸いッス(。。へへ；)

追伸

眞面目な一夏ファンの皆様、怒らないでくださいと嬉しそうス(×)

ーへ:)

【体験版】第3話 "・こわれたいつぐとこわれたたばちゅん•

火星と木星の間

アステロイド・ベルト…

偽装小惑星”アクシズ”

「ひきいっ！　ぎひっ！　ひぎゅうううっ…！」

リズミカルに一夏の上で跳ねていた束のグラマラスな肢体からだが一際大きくのけぞり、全身を痙攣させたあとゆっくりと弛緩させた…

「またイッちゃつたんだ？　束ねえ、かわいい！」

一夏の顔はにこやかだ。
だけど、その瞳には…
紛れもない”キョウウキ”が宿っていた…

「束ねえ…”あの部屋”に行こつか？」

一夏は束の女性らしい肢体を抱き締め、

「うぬ…うよおお…わらひ…こつたぱりやりれ…びんかん…」

「ダメ」

”連結したまま”立ち上がった。

「あやひこー！」

只でさえ絶頂の余波と余韻で敏感になつた肢体に、一夏の立ち上がり
た衝撃と自分の体重で、杭のように深々と突き刺さる”分身”…

その強すぎる刺激に、獣じみた悲鳴を上げる束がいた。

「ひゃぐつー ぐひゃー！」

歩く度にその振動と上下動^{ペーストーン}が”結合部”に伝わり、束の”胎内”^{なか}に
潜りこんだ一夏の一部が、より深く内部を穿^{うが}とりとする。

「おやゆつ…あらつれ…」

息も絶え絶えな束…

肢体の一一番深い部分を抉られ擦られる感覚^{かいだ}…

強すぎる快感に、既に呪律は回つていない。

そして、その刺激は確実に束の脳を侵食していた…

束をいわゆる【駄弁】にしたまま一夏がやつてきたのは、彼が”アクシズ”でも最もお気に入りの部屋だった。

束の中の人物・高町なのはが”いた”世界では、”時の庭園”と呼ばれ、三次元に引っ張りだされる事なく虚空間に位置してた”アクシズ”…

その”時の庭園”には、いくつもの部屋があつたが、その一つは”アリシア”という名の少女と深い関わりをもつ部屋があつた。

そう、”仮死状態”だったアリシアが收められていた大型医療用力プセルがあつた部屋だ。

ちなみに、束になつたなのは（ややこしい…）がいた世界では、アリシアは少なくとも、なのはがロストロギアに飲み込まれて【コチラに流される】まではピンピンしてたし、きっと今でもピンピンしてるだろ？。

といふか、プレセアさんも”アリシアが欲しがつたから妹”を覚えてた上でフェイントを作つたみたいだし（笑）

むしろ最近のアリシアは、中学卒業して早々と永久就職…【フェイント・T・スクライア】になつてしまつた妹（しかも、同じ年に赤毛の養子までとつた。スカさん事件の後は、金髪の美幼女まで養子にして4人家族）や自分が復活した途端に気が抜けたのか本来の”天

然キャラ”に戻り、あつさり再婚してしまった母を横田で見ながら、

『もしかして、私って遅れつー!?』

と、無限書庫で悶々とした毎日を送っているといつ。

大丈夫だ司書長アリシア。

例え長い時間力プセルで寝てた副作用で、成長が殆ど止まつてたとしても、きっと需要はあるぞ！

”キャラ・ハラオウン（笑）”みたいなケースは、わりと転がつてる…筈。

話は大幅に横道に逸れたが、これも仕様という事でご容赦を。

さて、別の世界ではアリシアが入っていた【透明な医療用生命維持カプセル】：

実は、アクシズにもそれは存在していた。

ただし、中に入っているのは…

「ほら、見てごらん。束ねえがもう一人いるよ？」

口調は優しいが、束の桜色の髪を乱暴に掴み、強引に顔をカプセルに向けさせる一夏。

しかし、束が嫌がつていなければ肢体の反応を見れば一目瞭然だ。
内部はギュウッと一層強く締まり、更に粘液を奥から次々に溢れさせていたのだから…

「わらひが…こる…」

そう、カプセルに入れる「」を彷彿させる液体の中に浮かんでいたのは、

「いつ見ても綺麗だよね？”生身の束ね”も、さ」

一夏は、この光景を見た時の衝撃を、未だに忘れていない。

そして、篠之ノ束から聞かされた”ISの真実”を…

「私はね、いつくん…篠之ノ束として生まれる前の記憶があるんだよ…」

語られたのは、束がかつて【高町なのは】という技術職で自ら装備のテスト・パイロットも務める…地球で言うならナチス時代のドイツに実在した【クルト・タンク博士】のような立ち位置の”航空魔導師”だったこと…

「ISに使わてる”コア”はね、本来は【レリック】って呼ばれる”人造魔法エネルギー結晶体”を元にしてるんだ。それにデバイスっていう汎用戦闘ユニットの人工知能を組み込んだ物なんだよ…」

【魔法】というファンタジックな力がある世界から転生したという束…

しかし、一夏はそれを妄言と決めつける真似はしなかった。

何故なら、束の口から淡々と語られる内容も、あまりに理路整然とし過ぎていた。

例えば、【魔法】というファンタジーな単語を、もし【まだ人類が知らない未知の物理法則】という単語に置換すれば、逆に説得力が酷くあつた。

そもそも、束が前世という高町なのはという女性が生まれたのは、地球以外の惑星にも人が住むようになり、別星系にまで進出していた時代だといふ…

相対的に言ひながら、篠之ノ束は【未来人で異世界人】という特異な存在となる。

だが、”IS”という従来の常識をあらゆる意味で覆す機体…

人間が装着できるサイズの機動甲冑に、重力制御や慣性制御、量子

レベルの質量や体積操作まで行つ代物を生み出すには、

(寧ろそれぐらいの特異さがないと、有り得ないかもな…)

少なくとも話を聞いてるわ、一夏はそう思つようになつていて。

「IS自体もね、私が高町なのはだつた時代に開発していた【ストライカー・フレーム】って装備を、再設計したものなんだ…」

そして、束は自嘲的に笑うと、

「JDF式魔導鍊金法で、この地球でも【レリック】が出来た時、本当に嬉しかったんだよ？でも、レリックだけじゃ特に意味はないの…問題は、レリックが溜めた膨大な魔力を、どう物理変換するかだから…だから、私はレリックを中心統制演算システムとマン・マシーン・インターフェース、それに魔導動力炉として使える”コア”に仕立てて、コアで動くISを作ったんだよ…だから、ISの本当の意味は【インフィニット・ストラトス】なんかじゃないの…」

束は一夏を見ると、

「【インテリジェンス・ストライカーデバイス】…それが、本当の”IS”の意味なんだよ」

その後、自分の開発したISが引き起こした様々な出来事に耐えきれず、泣きじやぐる束の口からは、多くの後悔が綴られるが…

それは、また別の機会に譲るわ。

そして、泣き止んだ束は再び自嘲的に笑い、

「でも、やっぱり神様つているのかも…私に”天罰”が下ったんだよ」

「…天罰？」

一夏の言葉に束は頷き、

「魔法の源はリンカー・コアだつて話したでしょ？ 私のリンカー・コアは、殆ど高町なのはの頃と出力は変わらなかつたけど…」

束は自分の体を見て、

「篠之ノ束の体はね、その出力…魔力幅射に耐えられ無かつたんだよ」

そして、案内されたのがこの部屋…カプセルに浮かぶ”生身の体”だつたのだ。

「今のはね、脳味噌とリンカー・コア以外は全部、戦闘機人の体…いつくんが最後に見た私と同じに見えても、機械仕掛けなんだよ…」

そして、束は一夏から視線をそらして…

「気持ち悪い……よね？」

”じやつー。”

「こつ…くん？」

その時の一夏の気持ちをどう表現すればいいのだらう。

答えは簡単だ。

”束ねえは束ねえ。俺の大好きな束ねえは、何も変わつてないよ”

だけど、言葉にした途端、全てが嘘臭くなるような気がした。

(言葉じや句も伝わらない…!…)

壊れるほど愛しても、1〜3も伝わらないかもしねー…

(なら、束ねえを…壊す…)

そして、

(俺も壊れればいいつー…)

そつすれば、2〜3は伝わるかもしれない。

愛は、狂気によりなく近い感情であり、憎しみと同じくその本質は同じ…

だから、愛は人を破綻させる…

理屈じゃない…本能が、魂が叫ぶ生々しい情熱^{エモーション}…

その日…

二人の”関係”が始まった日…

一夏は狂気に目覚め、壊し壊れる事を決めた。

束ねエハ、ダレニモノワタサナイ…

セカイナンカニワタサナイ…

オレダケノモノダ…

オレダケノモノダ…

オレダケノモノダ…

オレダケノモノダ…

オレダケノ

【体験版】第3話 & パート・1 われたいつくとこわれたたばちゅん&

皆様、「J愛読ありがと」「やれこました」と（ ） m

今から反応が怖い暮灘です（ ^ ^ :

最近、女の子同士の純愛しか書いてないから、ついやつちやいました！

…つていうのは、半分は冗談です（笑）

実は、”俺束”を書く上で避けて通れないのが今回のエピソードなんですよ。

前半は工口、中盤はアリシアネタでペースを変えて、ラストに”俺束”の核心と束ねえの最後の秘密、そして一夏に芽生えた闇と病みに続く…みたいな構造なエピソードです（・・^ - ^ A

でも、このHPISODEを書かないと、”ダークネス一夏（笑）”の行動原理が意味不明になってしまひます。

とりあえず、こんな作風の物語ですが、一夏のIIS学園入学がラストとなる【体験版】としては、これで中盤。

残すはあと最短で4~5話つて感じなんですが、お付き合いで頂ければ幸いです m (—) m

【体験版】第4話 & ロロ・兔は血ひに縛つし鎧に涙を流し、少年は黒毛娘

皆様、こんばんわー

実は行き帰りの電車の中で「コンコン書いてたけど、帰宅してから一気に書き上げた暮灘です（＾＾；

いや～、勢いつて大事ですよね（笑）

今回は、前話の”じわれた～”の中で意図的にオマージュした部分です（；^_^；A

その理由というのも、そのたった1シーンがえりらご長く（だから、今回は俺束の中で今のところ一番長いHPソードになつてます）、また俺束が【体験版】で終わるにしても、【正規版（？）】に発展リーチするにしても、最も重要なシーンで、また全体の根幹に関わるHPソードでもあります。

良くも悪くも、【俺束】における束と一緒に剥き出しの本質が描かれるHPソードですが、お楽しみ頂ければ幸いです（＾＾；）b

【体験版】第4話 "・兎は自ら劍に涙を流し、少年は黒き英雄

「ISに使われてる”コア”はね、本来は【レリック】って呼ばれる”人造魔法エネルギー結晶体”を元にしてるんだ。それにデバイスっていう汎用戦闘ユニットの人工知能を組み込んだ物なんだよ…」
束の口から淡々と語られるそれは、世界を根底から覆した”IS”の真実…

「IS 자체もね、私が高町なのはだつた頃に開発していた【ストライカー・フレーム】って装備を、再設計したものなんだ…」

それは同時に、篠之ノ束という女性が、”この世界ではない世界を知る”という証明でもあり、

「JUR式魔導鍊金法で、この地球でも【レリック】が出来た時、本当に嬉しかったんだよ？ でも、レリックだけじゃ特に意味はないの…問題は、レリックが溜めた膨大な魔力を、どう物理変換するかだから…」

なのはだつた頃の知識…

もう戻れない世界に想いを馳せるようだ、束は”レリック”を作つた…

「だから、私はレリックを中心統制演算システムとマン・マシーン・

インターフース、それに魔導動力炉として使える”コア”に仕立てて、その「コアで自在に動く汎用性の高い…何にでも使える人型ユニット”HS”を作ったんだよ…」

それは、まるでなのはだつた頃にやり残した事を…心残りを埋めるように…

「だから、HSの本当の意味は【インフィニット・ストラトス】なんかじゃないの…」

束は一夏を真っ直ぐに見て、

「【インテリジョンス・ストライカー”デバイス】…それが、本当の”IS”の意味なんだよ」

「束ねえ…ちょっと待ってくれ」

一夏は、急に入ってきた膨大な情報を一つ一つ噛み砕くようにしてから、

「まず確認したいんだけど…今の話を聞く限り、女しか扱えないっていうのは…」

束は小さく頷き、

「私、女の子しか扱えないなんて…一度も、一言だつて言ってないんだよ?」

「えつ……？」

「I.Sを動かす鍵って、性別は全然関係ないの。関係してるのは、【リンクーコア】の出力なんだよ」

またしても聞き覚えのない単語に首を捻る一夏。
束は優しく諭すように、

「人間なら誰だって持つてる、通常の外科的方法じゃ見る事ができない非物理器官。そして、全ての”物理的以外の力”：【魔力】を生み出す源の事だよ？」

「物理的以外の力か……」

「そう。普通は一人の人間が発する魔力はとても小さくて、力として顕在化することなく無意識のうちに体外に放出され、”魔力拡散力場”を形成するの。だから地球は、魔力的に見るなら濃密な魔力拡散力場が充満してるんだよ」

「一人の力は小さくとも、70億人分なら……ってこと？」

一夏の言葉に束は良くできましたという顔で、

「そうだよ。それも地球では魔導師が殆どいなかつたから…人類が有史以来、何千年もかけて蓄えてきた分がね」

そして一度言葉を切ると、

「でも魔力だけじゃ、物理的な干渉や影響はない…膨大な魔力を二次元空間で有効利用する為には…」

「物理的な力への変換機がいる。なるほど…それが、”コア”や”IS”に繋がつてくるのか」

束はニッコリと微笑み、

「いつくんは優秀だね　きっと、今からでも勉強すれば、凄い工ジニアに慣れるんじゃないかな？」

少し頬を緩ませる一夏。

例えお世辞でも、束にそつ言われるだけで、なんだか認められるようで嬉しかった…

「魔力を【術式】…魔力を制御する為のプログラムだと思ってね？制御して【物理世界】に干渉できる法則性を与えた力…術式制御された魔力…それが即ち、」

「【魔法】」

一人の声が綺麗に揃う。

束はクスクス笑い、

「いつくんは、時空管理局でも十分にやつてけそうだね？」

「そ、そつかな？」

少し照れる一夏を、束は眩しそうに見て、

「【魔法】で動く、だからこそ物理的常識・エネルギー保存やエンタロピー増大、その他の法則を無視して動いてるよう見えるEISだけど、一つ大きな欠点があるの。それは…」

束は言葉を選びながら、

「乗り手を選びすぎるんだよ。リンクアーコアの出力は、ここに関係していくんだけど…”コア”に組み込まれて魔導演算ユニットは、魔導師用の装備”デバイス”から発展したものなんだよ。だから、それを稼働させるには、相応のリンクアーコアの出力がいるの」

「でも、地球には魔導師はない…」

一夏の言葉は、束への疑問というより、言葉として口から出す事で考えを纏めてるようだった。

「魔導師になるのに最低限必要なのは、大きな分ければ二つだけ。先天的なリンクアーコアの出力と、後天的な魔導師としての教育・EISは、その魔導師教育を肩代わりする装備って言えるかもしないね？」

『形を変えた人造魔導師…って言いたくは無いけど』と、束は小さく呟いた。

「それじゃあ、女しか使えないって言うのは…？」

「【誤認】だよ…確かに、私が…ううん。高町なのはがいた世界でも、魔導師は女性が多くた…女の子の方が強い魔力を持つてる確率は高かつたけど、それは男の人の魔導師がいなって意味じや、断じてないんだよ」

「もしかして…男にもエスを動かせる可能性が、ある…？」

一夏は、自分の声が少し震えてる事を自覚していた。

その感覚は、暗闇で膝まで泥に漬かり、もがいてる時…
ふと頭上を見上げれば微かに一筋の光明が見えた…

例えるなら、それに近いのかもしれない…

「もつちろんだよ！ 比率は確かに女性より低いけど、男性だつて強力な魔導師はいっぱいいたしね…昔はクロノ君に訓練でふるぼっこにされてたし、ユーノ君のガード・スキルは最後の最後まで破れなかつたし…っていうか、ユーノ君の”空間傾斜防御結界（アングルド・ディメンジョン・ガーフィールド）”とか絶対に反則だと思うんだ？ それ展開したまま突撃して、背後から飛び出たフェイトちゃんとエリオ君がバッサリ！ なんて、ジェット・ストリーム・アタックみたいな攻撃仕掛けてくるし…」

ユーノが古代の魔法文献から復活させた『それ、なんてATフィールド？』つて口スト・マギカ（遺失魔法）とスクライア家のエゲツない合体技を思い出しながら、懐かしい顔をする束…

一夏は、胸にチクリと刺すような痛み…嫉妬とこの名の小さなトゲの感覚を感じながら、

「それって、俺にもIISが使える可能性があるってこと?」

無理矢理自分に意識を向けさせた。

「いっくんなら余裕じゃないかな? 正確に測定した訳じゃないからはつきりとは言えないけど… 多分、ちーちゃんと比べても1・3倍くらいはリンクアコアの出力ありそうだしね」

「なつ! ? なん…だって… ! ?」

そのハンマーで頭を思い切り殴られたような衝撃に、一夏は思わず絶句した。

「俺が… 千冬姉より強くなる可能性、本当にあるの… ?」

(あの第7艦隊をたった一人でスクラップの山に変えて、涼しい顔で大会連覇した千冬姉より… ?)

それは、幻想に似た夢物語に聞こえたけど… 束は事も無げに、うなら確實にあるよ?」

「魔力係数が強さのパラメータって訳じやないけど、あるないで言うなら確實にあるよ?」

“ざわつ! ”

一夏の心がざわめく…
はっきりと。

漢として生まれたなら、一度は憧れる【世界最強】の四文字…

ISの登場以来、永遠に男の手に入らないと思われていたそれが、

(俺の手の届くところに…?)

「いつくんみたいな子もいるのに、それでも世界は気付かない…固定された概念を変えたがらないんだよ…」

「束ねえ…?」

一夏が”失われた筈の漢の夢”の復活を感じてる時、束は寂しそうに哀しそうに笑っていた…

「白騎士事件の後、ISが世界最強の力の象徴になっちゃった…その力が欲しくなった国々は、所有権を巡り戦争までしようとしたんだよ…」

ポソリポソリと語る束…

「私はそれが嫌で、当時持つてた材料を全部使って、地球の今の技術でも扱えるように加工した400個以上のコアを作ったんだ…世界中が戦争で奪い合わなくて済む、十分な量の筈だった…」

「束ねえ…」

「戦争は回避できたよ？ それは今でも良かつたって思う。でも、今度は400個のコアが…私の作ったコアのせいでの、世界が歪んじやつた…」

束はうつむいて笑っていた。
でも、笑顔には見えなかつた。

「女尊男卑つて、何の根拠も正当性も無い薄っぺらな下らない価値観…その歪んだ世界で、ちーちゃんやほーきちゃん、いっくんが”普通に生きる権利”まで奪つちゃつたんだよ…」

顔を上げた束は、口元を歪ませ、少したれた優しげな瞳に今にも零れそうに涙を溜めていた…

「どうしてこうなつちゃうのかな？ 私、どこで間違えたんだろう？
コアを作つたのが間違いだつたのかな？ それとも、コアを世界にばらまいたから？ 私がただ大人しくしてれば、こんな事にはならなかつたのかな…どうして…どうして…」

束は顔を覆い、静かに泣き出した…

嗚咽を漏らしながら小さく…

”あゅつ”

「いっくん？」

気が付いた時、一夏は本能から束を抱き締め、自分の胸板に顔を押し付けさせながら、髪を優しく撫でた…

「思い切り泣いていいんだ、束ねえ… だつて今まで、泣けなかつたんだろ？」

「いっくん… いっくん！ いっくん！ いっくん！ うわあああああーーんっ！！！」

束は今度こそ大声で、まるで子供のように泣きじゃくるのだった…

だが、一夏の表情は束の表情と正反対だ。

(どうしてなんだよつ…)

その表情は、見間違えよつの無い憤怒つ…！

(どうして、俺は今まで何もしてこなかつた…)

それは、同時に自分への怒りや苛立ちでもあった…

(どうして、束ねえがここまで追い詰められなけりやならないんだつ…)

それはある意味、とても真つ直ぐな…不条理への怒り。

まだ世間は不条理なのが当然で、その不条理を当然のよう受け止めて生きる事を知らない、少年らしい純粋な想いだった：

（束ねえが、一体何をしたつ！？　ただ束ねえは束ねえらしく生きてただけじやないかつ！－　どうして世界は、束ねえから何もかもを奪おうとするんだつ！－－－）

大好きな初恋の娘ひと…

いつも才能に振り回されて、生きるのに不器用で、そのくせ優しくて、だから傷つき易くて…

（いいだろつ…）

一夏はこの時、燃え盛る漆黒の炎のよつた力がみなぎるのを感じていた…

（間違つてるのは束ねえじやない…セカイだつ！－）

たつた一人の少女を寄つてたかつて追い掛け、追い詰め…地球に安住できなくした世界の方だ！－

それが一夏にとつての”真理”…

「もし、俺にIISが操れるのなら…」

(HUGO が歪めた世界だと嘗つたない…)

束ねえが望まぬ歪みを、HUGO が生んだとこりのなら…

(もの歪み、俺が全て正すつ…)

その純粹過ぎる想いは…

その純粹過ぎる怒りは…

混じり合い火花をあげ、黒き炎となつて少年を鎧のよつて覆いつぶへ
す…

人は言ひ…

この瞬間にこゝが、最強にして最悪のHUGO 乗りとつたわれた…

【織斑一夏】の誕生だとつ…！

【体験版】第4話 "・兎は血ち鰯つし鎧に涙を流し、少年は黒毛英雄

皆様、『J愛読ありがと!』やったましたm(—)m

書いてるだけにどんどん長くなり、「また投稿が深夜枠かっ！？」
と焦りまくった暮灘です(へへへ)

前回第3話では”愛ゆえに壊れた一人”を書きましたが、今回は一
人別々の意味で…

そう、この物語の”根本的立ち位置”を記したのが、今回のエピソ
ードとなります(・^__^・A

いや、なんか一夏くんが黒くて純粋で熱くて、束ねえが憐れで可愛
くて、書いてへ口へ口になりました(笑)

今回のように用事が入る。勢いが乗らなければ更新速度はマチマ
チになってしまかもしれませんが、また次回もよろしくお願ひし
ますm(—)m

【体験版】第5話 & ロロ・魔獣は心優しき眼を張り、かくて兎は用意され

皆様、こんばんわー

またしてもこんな時間にアップの暮れです(^ ^ ;

明日は土曜日って事でご勘弁を

今回のエピソードは、基本的に第3話の続きで、まあ”深夜枠”的
エピソードです(笑)

ただ、かなり考え方によつては、重いです(^ ^ ;

ある意味、一夏の束に対する【愛情の本質】や、こいつ【レイジングハートの想い】なんかもインストールされてます(^ _ ^ ;)

そして…

今までと違う意味で…

束ねえが可愛いッス！（爆）

ひとつあります。こんな話ですが、お楽しみいただけたら幸いです（＾＾）

【体験版】第5話 "魔獣は心優しき眼を張り、かくて兎は用意され

そして再び現在のアクシズ…

情事は続くよ、何処までも…

「ひやつぐつ… めつ…！」

メディカル・カプセルに眠る束の”生身の肢体”を肴にしながら、脳味噌を移植した機械の肢体の束…”現在の束”を貪る一夏。

それは紛れもなく織斑一夏という【かつて少年だった存在】にとって、この上なく至福の一時だった。

既に何回もの絶頂の末に束の肢体はすっかり熱を帯び、そして知覚を超える快楽は束の正氣を融かし…

狂氣ではなく、狂乱の彼岸へと導いていた…

「うめえ…ひょんな…うー…いりつりやひ…」

「何がダメなのかな？　ああ、この”突起”のこと？　ふふふ…こんなにピンピンしてるんだ？　束ねえ、思い切り捻つて欲しいんだよね？」

「ひがあ
」

いいよ。ねじ切れるぐらい捻つてあげるからさ」

一夏は、座つた体制で束の”後ろ”に結合しながら、脚の間…その付け根にある、今にも弾けそうなほど充血した突起へと手を伸ばし、人差し指と親指で挟みこんだ。

「うめえええええ——つ……」

与え続けられた悦楽で弛緩しきつた肢体の最後の力を振り絞るよう
な絶叫も虚しく…

「駄目だよ」

”ギリツ！”

体温を感じぬ台詞と同時に、一夏の指が挟み擦り潰すように、同時に根本からもぎり切るように動いた。

「ふきこい」――――――――――――――――――

今までより一層大きな絶叫と同時に束の豊満な肢体が跳ねるように痙攣し、見開かれた瞳から、開いた鼻孔から、酸欠の金魚のようにパクパクさせた口から液体が溢れ、そして…

”ふしゃああああ！”

擬似的なアンモニア臭が水音と同時に部屋に広がった。…

「ひつく…ひつく…」

微かな失神の後、気が付いた束は小さく泣き出した。

後ろを貫かれたまま、本物の子供のよう」…

「たばね…おもらししゃつたよお…いつくんより…おねえちゃん
なのに…おもらししゃつたよお…」

一人称が変わっていた。

それは、【本来なら存在しない筈の束】だった…

束は幼い頃から【高町なのはとしての意識】が顕在化していた。

そのような束にまともな子供時代なんかある訳はない。

だが…

「大丈夫だよ、”たばね”。そんな事ぐらいで”ボク”はたばねを
キライになつたりしないよ？ むしろ、”おもらししゃつたたば
ね”は可愛いって思う」

「いつくん、ほんと？」

「ああ。ほんと」

その時の一夏の微笑みをなんと表現したら良いのだろうか?

あえて言つなら、慈愛に満ちた兄と、魔神の黒さだらうか?
何より…

純粋過ぎてむしろ美しくしかり見える”狂氣”を瞳に宿していた。

* * * * *

種を明かしてしまおう。

束の抱えた数多くの後悔と罪の意識を、一夏はずつと軽くする…出来れば、〇にする方法を考えていた。

『束ねえは悪くない。悪いのは世界の方だ…』

例え一万回その言葉を繰り返したところで、束が納得する訳ないのは目に見えていた。

こつこつ時、言葉は無力だ。

本人がその言葉を受け入れる気がない…束が自分を赦す気がないのなら、言葉は心の上つ面を滑つてゆくだけ…

ならば、どうするか？

（強制排出させるしかないじゃないか：無理矢理にでも、力任せで
もつ…！）

そう考えた時、ヒントをくれたのは意外にも、レイジングハートだ
った。

『イチカ、少しマスターとの昔話…年寄りの戯言に付き合つてくだ
さいますか？』

今にして思えば、レイジングハートは既に一夏の葛藤と思いを薄々
気付いていたのかもしれない。

気付いた上で手を貸したような気がする…

レイジングハートが一夏に話したのは、本当にとつとめのない昔話
だった。

ただ、高町なのはという人間がどう生きて、篠之ノ束といつ“この
世界の少女”がどう育つたのか…

ただ、それだけだった。
だが…！

「ありがとう…」

一夏は、その頭の回転の早さを見せつけるように田を爛々と輝かせて駆け出していた。

『Good Luck イチカ』

ところがレイジングハートの驕くような声援を背に受けた…

一夏が向かったのは、”束の生身”が眠る部屋だ。

内心、勝手にメディカル・データを覗き見る事を束に謝罪しながら一夏が見つけたのは…

(やつぱり…!…)

ディスプレイに映る全てのデータは、束が紛れもなく”処女”である事を示していた。

「束ねえは、男を知らないんだ！ 多分、”なのはだつた頃”を含めても…！」

その時、一夏は狂ったように高笑いをあげていた。

束が【誰のものでもない】事を素直に喜んでいたのじゃない。

よつやく、探してた”突破口”が見つかった事が嬉しかったのだ！

「束ねえ、待つてよ…クククッ…俺が、俺が必ず束ねえを”解放
”するからさつ…！」

一夏の出した結論…

それは、

「束ねえを快樂で破壊する…！」

性的な意味では子供のように束に、強制的に快樂を刻みつけ、また
羞恥につぐ羞恥で心を擦り減らせる…

それは、単純に【束を調教して従順な雌奴隸に仕立てる】なんて單
純な話じやない。

一夏の目的は、全く別にあつた。

「そして、羞恥と快樂の果てに、【人為的なトラウマ】を作る…」

一夏はパンツ！と手を打ち鳴らし、

「”逃げ場”になるトラウマをつ…！」

少しだけ補足しよう。

人は誰しも何時までも苦しみや重さを抱えては生きていけない。

だからこそ、人間には”忘却”という便利な機能が備わっているのだ。

だが、束にとつてこの地球での出来事は…世界の歪みは重くのしかかり、忘れる事は出来そうもなかつた。

(だけど、束ねえだつて無意識では解放されたがつている…)

人の心の防御機構とはそういう物だ。

(ならば、俺は…)

「それを徹底的に利用させてもらひ…――」

一夏は、じつ考えたのだ。

(束ねえが、罪を感じなくて済む時…それは、)

「世界になんら影響力を持たない…”どこにでもいる普通の子供だつたら”つて【仮定】…」

そして、子供とは…

「大人では社会的に許されない事も許される存在…」

かくて【逃げ場としてのトラウマ】のモデルは決定した…

（束ねえに幼児退行を引き起こさせ…）

「あり得なかつた”無垢なガキ”に還元するーー！」

その時一夏の浮かべた笑顔は、先の笑顔と同種同質の物だった…

* * * * *

そして、一夏は成功した。

勿論、彼だけの力じゃない。

レイジングハートの『こぞ』という時の的確な支援とバックアップがあつたからこそ、成し得た結果だ。

かくも当然の事だろう。

束になる前からマスター…幾多の死地を共に潜り抜けてきた”相棒”に救済の機会があるのなら、彼女がそれを望まぬ訳はないのだから…

『どんな歴戦の戦士とて、休息は必要です』

そして、レイジングハートの見つめる先では…

「ほら、たばね…まだ残ってるだろ？」

後ろに突き刺さったまま、足を捕まれ開かされた束は、まだ一人では用の足せない幼児のようなポーズで、

「うん しゃあああ～っ」

その濁り光の消えた瞳には、既に知性は残つておらず、同時に絶望も哀しみもない…

あるのは快樂を素直に悦びとして受け入れる肢体からだと、『いちかおにーちゃんだいすき』じゅうじやく』という魂だけ…

「たばねね、お尻とおへてもきもちいいだよお」

「じゃあ、今度は尻からも出してみようか？」

「うん。」

それはまた、一つの【純粹な愛の姿】には、相違無かつた…

【体験版】第5話 & ロロ・魔獣は心優しき眼を張り、かくて兎は用意され

皆様、「」愛読ありがと「」やれこおした m (—) m

『一夏が何故、束を壊したのか?』

ある種、その本当の理由が明かされるエピソードでしたが…いかがだつたでしょうか? (^_^;)

実は夕方のトラブルや、何がなんでも日付が変わる前にアップしたかった意地で一気に書いたので、誤字脱字ばく容赦を(^__^;) その都度に直していくつもりです(—)

実は、えっちな描写が無ければ、【一夏の狂氣と愛】が全面にじだたエピソードでしたが、どうだったでしょうか?

【体験版】として考えるなら、そろそろ後半戦…

これからも応援よろしくお願いします(○^ - ^) b

それではまたお会いしましょう

【体験版】第6話 "・獣は魔物の力得て魔獣へと至り、そして兎の遭

皆様、こんばんわー

本日は中々執筆時間がとれず、シングル・アップになりそつた暮灘です。

今回のHPソードは…

前回サブタイに出てきた”魔獣”の意味が明らかになる回です（笑）
ケダモノいつくん（笑）が、どんな”魔物”の力を得るのか…まあ、
それは本編のお楽しみって事で（＾＾；

そして、作者が言つのもなんですが…

どんなに強く黒くなつても、いつくんはいつくんだなあ～と（＾＾）

こんなHPソードですが、楽しんで頂ければ幸いです（＾＾）

b

【体験版】第6話 “獣は魔物の力得て魔獣へと至り、そして鬼の傳

そして、暫しの時が流れ…

『イチカ、マスターは?』

ふわふわと漂うように飛んできたビー玉サイズの真っ赤な魔導球に、
「完全に白眼剥いて”落ち”ちゃつたからなあ…ベッドに寝かせて
きた」

最後の絶頂…

後ろからも粗相を”させられ”、敏感になつた所に一夏に加えて更
に”一本刺し”をもらい、全力”全壊”で中を焼き回された【たば
ねちゃん】…

結果は推して知るべし。

『機人ボディのマスターを”システム・シャットダウン”まで絶頂
に導くなんて…毎度思いますが、どれだけ下半身チートもしくはケ
ダモノチートなんですか?』

「いやレイハさんや、そんな人を化物のように(汗)一応、一夏
さんも【ナノマシン強化体】だから並みの人間より頑丈ですか?…

まつ、それに

『それに?』

「いつも、レイハやブレハがやつてくれる【リンクアーゴア・ダイレクト・インターラクティブ・フィードバック】方式の戦闘シミュレーションあるだろ?」

『ええ』

「あれを利用して、ちょっと束ねえの性感度を極限まで…』

『悪魔』

「バッサリだあ～っ!』

すると、皮膚と一体化して右腕のガントレットから、

『お姉様、マスターは悪知恵と技術の悪用を考える時の脳の演算処理速度は天下一品です』

「ブレハもフォローしきよつー。』

『ええ。とてもよく知っています』

織斑一夏…

何故かデバイスにはいじられ易い（好かれ易い？）体質のよつである。

「まあ、[冗談はさておいたとしても…】

一夏は少し襟元を正し、

「束ねえの見れるのは…俺があげられるのは、ほんの短い安息の夢に過ぎない。所詮、まやかしの平穏…”あれをゆめみし えひもせず”だ」

一夏が口にしたのは【伊豆波】の一節…
意味は”夢は浅く、酔う暇さえもない”

『ええ』

「田が覚めれば、いつもの束ねえだ。勿論、辛い現実も、いつだって束ねえを傷つける残酷な世界もそのまんま…」

『イチカがマスターを”たばねちゃん”として固定化せらる…過去も前世も”根底から破壊”しない限りは、その通りです』

レイジングハートはあいつひとつ一つの答えを…おそれべ、一度と束が苦しむ事のないであひづ答えを告げた。

「…真剣に考え悩んだ事はあるさ。でも、できない…例えその方が、束ねえことって楽に生きるとわかつていてもさ」

脳裏に浮かぶのは…

「H'Pでもなんでもいい。甘いのは自覚してる……だけど、あの笑顔をもう見れないなら……」

”いつくん”

優しき笑顔…

「俺がこの世にいる意味なんて…ない」

心にトラウマ植え付け、身も心も一部ないし一時でも支配したのは確かに自分だ。

(だけど…)

”溺れたのは、自分”

その程度の自覚は一夏にだつてある。

一夏の台詞に嘘はない。

いつの頃からか…いや、もしかしたら最初から、束は一夏にとつて

【生きる理由の全て】なのだから…

『『So Sweet』』

「だあ～っ！ テメエら姉妹声揃えて茶化すんじゃねえ！！！」

『別に茶化してはいません。やはり、マスターはアーク・マスター

にベタ惚れの骨抜きなのだと再認識しただけで』

『まあ、当たり前過ぎる認識ですが』

「うがあ～～～つ！」

やはりイジラれ易いよつだ（笑）

* * * * *

束が意識を失っている間を縫つよつて、一同はハンガーへと向かう。

そこに鎮座していた機体：

束の設計図を元に、一夏が”戦闘概念”を追加し、レイジングハートとプレイブハートが、アクシズの全システムを投入して作り上げた【一夏の専用機】…

だが、その”漆黒”に塗られたIJSは、あまりにも異様で異形だつた。

全体のイメージを先に言つなら、4種類の機体の合成機：

最初はガンダムUCに登場する3機の主人公機の1機、”クシャト
リヤ”。

特に両肩部に装着された自在に動く2対4枚の巨大なフレキシブル
バインダーが、特にその印象を強めているのだろう。

だが、上半身のデザインはまた別の機体と印象が似ている。

劇場版ナデシコで天河アキト共々大暴れした主人公機”ブラック・
サレナ”だ。

上半身以外にも、バックパックのデザインや、装備された”テイル・
アクティブ・スタビライザー”：一夏に言わせれば【スコーピオン・
テイル】が、その印象を強めている。

また、全体のカラーリングが漆黒な事もそれに拍車をかけているの
だろう。

3機目は、ガンダム00の2ndシーズンに出てくる宿敵機の1つ
”アルケー・ガンダム”だ。

それは脚部を中心とした下半身のデザインと、バックパックにマウ
ントされた、間違いなくメインウェポンの一つであろうEIS程の長
さのある巨大な片刃”バスター・ガンソード”に現れている。

ラストは、クシャトリヤに近いデザインと右腕と比べやたらと巨大な左腕…多分、それみればピンと来る人も多いだろ？。

その魔獸の爪を彷彿させる鉤爪がついたアンバランスなほど巨大な腕は、”紅蓮聖天ハ極式”のそれに酷似していた…

見た人間に本能的恐怖を惹起させる禍々（まがまが）しさを、何んでいるだけで発散する機体…

まるで、一夏の”世界に対する敵意”を具現化したような漆黒の甲冑…

IISとは名ばかりの【異形異能の合成魔】キメラ…

その名を、

「よし、【ジャバウォック】…我が愛機にして”純然たる破壊の魔物”よ。」機嫌麗しそうで何よりだ」

そのデザインや武装、スペック…

ルイス・キャロル著【不思議の国のアリス】に出てくる魔獸に準え
”ジャバウォック”と名付けられた機体が、どのようなコンセプト
で作られたのは、一目瞭然だ。

つまり…

【単騎殲滅仕様】

I.S.に限らず、この世界にいる”全ての敵対者”を攻め滅ぼす為だけに作られた機体だった。

「ジャバウォックよ… 我が憤りを怒りを詰め込み生まれた鎧よ…」

ジャバウォックに触れながら、一夏は呟く…

するどビッグだわい…

” ウオオオン… ”

エネルギー反応がない筈のジャバウォックから、微かな唸り声のような音が響いてくる…

「我と共に敵となる者全てを斬り、貫き、焼き滅ぼす魔性の剣よ…」

『マスター… それ以上、”彼女”を悦ばせると、私でも手綱を握りきれなくなるかもしだせんよ?』

右腕のブレイブハートがそう促すが、

「いいじゃないか。事実さ」

そして、一夏は両腕で抱き締めるように、自分より遥かに大きなジ

ヤバウォックに触れ、

「ジャバウォックよ… 我が鎧にして剣なる古の名をもつ”魔物”よ

…」

”ウオオオ…”

「かつてお前が千冬姉と共に感じた怒りを！ お前を創りし束ねえの絶望を！ そして我が憎悪を贅にし、我と共に世界の歪み全てを滅ぼせッ！！」

”ウオオオーーーン！！”

刹那、ジャバウォックより放たれる物理的破壊力をともわない強力な魔力輻射…

それがジャバウォックの意思を示すように、”光り輝く十字架”を為したつ！！

『マスター、やり過ぎです。ジャバは今にも飛び出しそうじゃないですか』

「これでいい…レイハ、最終調整までの所要時間は？」

『あと72時間あれば』

その言葉を聞くと、一夏はクッククックと喉の奥から絞り出すような笑い声で、

「あと三日…三日で世界は、自分達が住んでいる場所が【エラつて守護神に守られた楽園】でないことを思い知るだろ？！…！」

グッと拳を握り、獰猛な笑みを浮かべる一夏…

『…イチカ、本当にいいんですか？ イチカの計画は、一歩間違えれば夥しい死者が出るでしょう…そうなれば、マスターはきっと哀しみますよ。』

「だらうね…ならレイハ、俺を止める気はあるのか？」

『否。マスターが一つの意味で”故郷”であるあの蒼き星に、大腕をふつて戻れるといつのなり、何を反対する理由がありましょ？』

レイジングハートの答えに一夏は満足そうに頷き、

「そういうことさ。誰よりも大事な女ひとが泣き続けてるんだ…今、俺が泥をかぶらなければ、俺はこの先、いつ誰の為に泥をかぶればいいんだ？」

『如何にもマスターらしい、ラヴ臭を隠さない回答ですね？』

何故か声優の伊藤静を思わせる、右腕から聞こえるブレハの声に、

「ブレハ…お前のその一言多い性格は、どうかならないのか？」

『お姉様譲りですか』

それに対して、レイハがどう答えたのかは記録には残っていない。

だが一つはっきりしてるのは…【世界規模の災疫と惨禍】が、もう目前まで来ているという現実だった。

織斑一夏…

束一人と世界中の人に命を天秤にかけたとしても、一瞬も迷わず束を選ぶ…

一夏とは、そういう”漢”なのだから…!!

【体験版】第6話 "・獣は魔物の力得て魔獣へと至り、そして兎の遭

皆様、>愛読ありがとうございましたm(—)m

ついに出せた、”最強にして最悪”のじつくん専用HS
いや～、コンセプトは最初からあつたけど、デザイントな前が中々
決まらない決まらない（笑）

でも、読者の皆様も、素直に由ばが出てくれるとは思ってませんでした
よね？（^ ^ ;

かなり隠し機能満載で、掛け値無しに【世界を相手に喧嘩を売れる
HS】…

果たしてどんな活躍をするのかは、次回以降にて（o^ - ,) b

【体験版】として規格したこの俺束も残すとこあと3話だと思
います。

正直、【正規版】を描くかどうか迷うところ…

とりあえず、【体験版】を書ききった所で、一度ちゃんと検討し、
また読者の皆様にもお伺いすると思いますが、その時は是非にお願
いしますm(—)m

それでは、また次回お会いしましょう

【体験版】第7話 "・飼われた兎は名を呼ばれ、魔獣は兎に溺れて死

皆様、こんにちはー

予定が夕方から夜にズレこんだせいで、昼間のうちに（いや、もう夕方だけど）2本アップできてラッキーな感じの暮灘です（^ ^ ;

さて、今回のエピソードは…

”出陣”前の最後のラヴステージ（笑）ですね～

いや、全編ラヴラヴ臭が出まくりです（笑）

とこりかサブタイにヒントがありますが、二重の意味で中の人的な繋がりの、”とある有名シーン”のパロディがあつたりします（^ ^ ;

そして、珍しく（初めて？）束観点からのシーンが…

すみません（—）
書いて萌えました（笑）

さて、【体験版】も残すとあと1話、長くても2話。

【体験版】が終了した後に、ちょっとしたアンケートっぽい何かを

投稿し、そこで暮灘が悩んでる【正規版】の問題点も明らかにしますので、その際にはご協力して戴けると助かります（――）

では、【体験版】ラストの甘々（笑）を楽しんでいただければ幸いです（○^ - ^）b

【体験版】第7話 “飼われた兎は名を呼ばれ、魔獣は兎に溺れて泣

それは、”旅立ちの日”…

小惑星”アクシズ”にて…

「いつくん…本当にいっちゃうん…だよね？」

心配そうな、そして寂しそうな顔をする束に、一夏はほんの少しだけ覚悟が、束の元からはなれるという事実の前に揺らぐのを感じていた。

「大丈夫だよ、束ねえ。少々力押しになるけど…【I-S学園】に入學を認めて貰つて、各國の動向と現状のI-S技術水準を探りながら、”ジャバウオック”のテストを行う…ただ、それだけだから」

一夏の言葉に嘘は無い。

少なくとも、大まかな過程はその通りだ。

ただ、詳細と『ついでに歪みを駆逐して世界を改造していく』って文言を伝えてないだけだ。

「それに、定期的に帰つてくるよ。俺とブレハ、ジャバウオックなら、それこそ地球なんて目と鼻の先だし」

努めて隣近所にも行くような言い方をする一夏。

『当然です。マスターが帰る気を起さないのであれば、私が”強制転移”させてでもアーヴ・マスターの前に連れします』

と、右腕からクールな女性の声。

「クスクス ブレイブハートたら」

と微笑む束だったが、

「…いや、ブレハは半分以上マチだと思つよ~」

『当然です。それに良く言つてしまつ~ 悪質な冗談は、本当に実行するともつと面白こと』

「…色々とブレハ話し合わなければ、いや話を付けなくちゃいけない事ができたみたいな気がするけどさ、とりあえず心配は要らないよ」

そりつと一夏が言つて、

「あ、あのね、いつくん…」

「なに?」

束は妙にモジモジしながら、

「H.D.学園つて女の子ばかりだし、せつと可愛い娘もいっぱいいる」と思つんだが…

『せうだっけ?』と、束と比較つて思つてしまつ一夏であるが、「束さんとしては、浮氣はこへらしても構わないんだよ?」でも、

見れば、束の顔はもう真つ赤だ。

(あー、もう! 可愛いなあつーー)

一 夏 side -

束ねえは、可愛い。

これは真理であつ真実だと思つ。

普通でも、いつも束ねえの可愛さにヤラしてゐ俺が言つんだから間違ひない。

でも、

(正直、顔を真つ赤にして口元を押されて上田使つは、反則ですた
いつーー)

スッゴい決心鈍るんですけど…

世界に喧嘩売る覚悟はむしろ急上昇なんだけど、

（束ねえのそばを一秒でも離れる決心があ～つ！）

嗚呼、いつそ世界なんて無視して束ねえと一人、終わらない夢でも見てしまおうか？

キット、タバネダツテソツチノホウガヨロコブサ

オマエガ、”サツリクシャ”ニナルヨリハ

（いかんいかん！）

その甘い囁き…多分、俺の中に残った最後の良心（？）の言葉に、俺は一瞬の乗りたくなる。

だが、それでどうなる？

束ねえを取り巻く世界も変わらないし、もしかしたら、あと数十年経てば”アクシズ”は発見されるかもしない。

（束ねえや俺にとつては”切実な現実”だ…）

束ねえは、脳のメンテが完璧な機人ボディで、俺は肉体再生能力には自信ありナノマシン強化体・誰かに殺されない限り、二人揃って数十年どころか人間の脳の耐用年数限界（人間の脳は一説によれば、何も無ければ170年間は持つらしい…）までピンピンしてる公算は大きい。

数十年後に小惑星攻略戦なんてやられたら、たまつたものじゃない。

（実際、束ねえが【前にいた世界】じゃ、そんな事例いくつもあつたみたいだし…）

確か最初の事例は、ジオン突撃宇宙軍の”ルナツー強襲上陸作戦”…”オペレーション・スコティッシュ”だつたかな？

（束ねえのいた地球人が出来たんだ…）

この世界の地球人がやれない保証は…
どこにもない。

（束ねえが、もう一度故郷を逐われるなんて…）

許せる訳はないっ！！

俺の葛藤を察してないだろ？（察しられても困るナゾ）束ねえは…

「浮氣はどんなにしてもいいけど…本気は、ちょっと困るかなあ～つて…テヘヘ…」

嗚呼…

もうこの女はなんて…

「可愛い過ぎだよ…”束”」

俺は気がつくて、束ねえを”束”と呼び、思い切り抱き締めてた…

束 side -

「いつくん…？」

今、確かに…

「”束”って呼んだ…よね？」

”束ねえ”でも、”たばね”でもなくて…

「私のこと、束つてちやんと…ちやんと今まで呼んでくれたよね？」

いつくんは、少し照れ臭そつこ、

「ネタで済ますつもりだったんだけどさ…」

いつくんは、そつと私の首の後ろに手を回して…

”かちやん”

「えつ…？」

首に緩く巻き付けようにかかる小さな重み…

そして、そこに垂れ下がる金属プレートにそつと触れてみる。

(" Tabane" ...?)

それは、間違いなく私の名前がローマ字で彫られていて…

首の回りの革の感触と、名前の入ったプレートって…

「もしかして、”首輪”...?」

いつくんはニッコリ微笑んで、

「束は今日から...」の瞬間から、俺の【飼い鬼】だから...俺が飼い主。だから...」

いつくんは私をギュッともう一度抱き締めてくれて…

「もう俺の物だ。束は、俺だけの物だ...」

ずっと、いつくんが好きだった…

でも、私は本当は何十歳も年上で、それに機械仕掛けで…

だから素直に言えなくて…

(だから私を力ずくで求めてくれた時、凄く嬉しかった…)

(こんなに世界をねじまけでしまった…)

薄汚れた私を、”ただの女”として求めてくれた事が…

拒もつと思えば、こへりでも拒めた。

(でも、拒める訳なんてよ……)

心も体も、いつもいつくんを求めてたんだから…

いつくんは、えつちでヘンタイさん

(でも、いつも私の事だけを見つめて、思ってくれる……)

私が一時的におかしくなるくらい、恥ずかしい事をさせて心をボロボロにした理由…

(ちやんと、わかつてるから…)

いつくんいつくんいつくんいつくんいつくんいつくんいつくんいつくんいつくん…

(大好きーーー)

だから、

「うん、わかったよ…いつくんが望むなら…私、喜んでいつくんこ
飼われるよ」

気がつくと、自然に口元出してた…

「束は俺だけの物だ…絶対、誰にも渡さない…ーーー

死んでもいいじゃ…

わ…

一夏 side -

首輪なんて、最初は軽い冗談のつもりだ。

ただ、苦笑でもいいから笑って見送つて欲しかった。

束ねえに涙で見送られたら、きっと事あるじにその泣き顔がちらついて、色々な決心が鈍りそうだったから…

どれほどまやかしの破壊したところで、”束ねえ”が俺の初恋の人で、遠かつた憧れの女^{ひと}だって事は、何も変わらない…でも、

「うん、わかったよ…いつくんが望むなら…私、喜んでいつくんに飼われるよ」

ますます惹かれる…

駄目だ…

溺れてゆく…

「束は俺だけの物だ…絶対、誰にも渡さない…！」

タバネヲキヨゼツスル”セカイ”モ

オレカラタバネヲウバオウツスル”セカイ”モ

みんな滅べばいい…！！

そして俺の腕の中で、束は無防備な…心から甘えた仕草で、

「だ〜か〜ら！ ”メス兎の束”を、最後までちゃんと飼つてね?
捨てちゃ…やだよ？ ”ご主人様”」

”ぶつん！”

すみません。

俺の中で、弾けたら社会的にまずそうな何かが、たった今跡形も無く消し飛びました。

「束エエエー——ツ——」

「つみやつーーー？」

その日、俺の出撃は予定時刻より12時間も遅れた…

何があつたかなんて野暮な事は聞くなよ？

ただ、束が見送れる状態でなく…

デバイス・シスターZには散々イジラれた事だけは書いておく。

【体験版】第7話 "・飼われた兎は名を呼ばれ、魔獣は兎に溺れて泣

皆様、『J愛読ありがとう』やったましたm(—)m

婚約指輪ならぬ”契りの首輪”だった今回は如何だったでしょうか？（^_^；）

正直、束視点で彼女の心情がちゃんと描けたかどうか、激しく不安です（汗）

ぶつりやけてしまつと、ラストシーンの前に、物語のベーシックである【一夏と束の愛】を再確認の意味を兼ねて描いてみたかつたつて言つのが、本音です（笑）

さて、いよいよ【体験版】もラストスパート！

もしよろしければ、最後までお付き合こられる事を祈つづ...

それでは、また次回お会こしましょつ（o^ - ^）b

【体験版】第8話 "かつて兎は甲斐の一つの心臓を語り、かくて

皆様、こんにちわー

ちよつと予定が色々錯綜し、混乱氣味の暮れです(へへ；

わたくし、今回のエピソードは…

いよいよラストシーンへ向けて走り出した～的な話かと思いきや、一見するとコメディ全開な過去なんだけど、実はISの重要な情報が微妙に入っていたり…

いえ、すいません(——)

実は、とある読者様の「」感想への返信を流用して、可愛い束ね文を最後に書いてみたかったのが本音ッス(・_・^__^A

しかし、IJの機能は本来…
そして、後半はまだ【地球のISが至つてない筈の機能】を、一夏&ブレハ&ジャバは披露します(○< - ,) b

一夏（魔導師としての訓練を受けたナノマシン強化体）+ブレイブハート（サポート・インテリジェンス・デバイス）

とこう組み合わせで初めて使いこなせる…筈なんですが、それを無

視して使いそうなキャラも(; < _ ^) A

そんなエピソード感じのですが、楽しんで頂ければ幸いです(o ^
`) b

(そういえば…)

昔、束ねえにこんなレクチャーを受けた事があつたつけ…

* * * * *

「いつくん、ISがどうしてあんな巨大に力をだせるかって考えたことある?」

「…束ねえが前にした説明だと、ISの【コア】に使われてる”レリック”が、地球上に人類が無自覚に充満させ続けた【拡散魔力】を吸つて圧縮、蓄積：一種の”魔力コンデンサー”として機能し、物理的には有り得ない程のエネルギー…”物理変換された魔力”を供給してるから…じやなかつたつけ?」

「パーフェクト　さつすがいつくん　あつたまいい」

そりやあ束ねえの言った台詞は、地球の機材じや計測不能な記憶容

量を誇る「フレハ」に一言一句逃さず記録して、暇があれば再生してますから

ん？ 今、キモいつて言った奴、誰だ？

それは、束ねえの愛らしい姿と声を知らないから言へる言葉だぜ？

いいか、よく聞け…

束ねえのルックスをよく説明してやる！

まず基本は…

【パステル・ピンクのワンピース+少女趣味丸出しのフリフリのついた真っ白なエプロン】

がデフォだ。

バリエーションはスカートならミニー・ミドル・ロングがあって、袖も長短だけでなく色々なデザインを持つてるんだぜ？

勿論、束ねえに死ぬほど似合つ純白のエプロンも、フリルの形や大きさ様々な種類がある。

しかも、

「今日はお掃除だから、エーの方が動きやすいかな？」

みたいな感じで、その日の気分で取つ替え引っ替えしてるのや。

だが、凶悪（な可愛）さはそれだけに止まらない。

足はやつぱり白がメインのニーソやストッキング+ガーダーベルトの最強コンボ！

個人的な主観だが、束ねえにはパンストは邪道だ。

これらのストッキングやソックスには当然、ローヒールやパンプスが組み合わされる。

下着は白、パステル・ピンク、白とピンクのストライプの何れかで、デザインはシンプルで可愛い系が好みだ。

ん？

今、子供っぽいって思わなかつたか？

フフ…甘いな。

【とある魔術の禁書目録】って古典文学（作者注：19世紀は近未来なので、一部のラノベは我々が明治時代文学を見る感覚）を知つてるか？

あの作品に出てくるオルソラ・アクリナスに、月読小萌の服を着せた時を想像してみると、分かりやすいかな？

なんか…

背徳感つていうか、犯罪臭がブンブンして…妙に”そそられる何か”が、頭と心と魂に来ないか？

もし来るのなら、やつと俺と分かれないと困る。

だが、束ねえの最強にして最凶の萌武装（笑）は、頭上にいるある…

そう、あの”トレーデ・マーク”や。

再会した時は、【メタル・ウサミ】って呼びたくなつたけど、外出時（臨戦体制）の広域センサーとして機能しているらしい。

束ねえに言わせれば、

『兎の耳が長いのは、遠くの小さな物音と聞こえてきた方向を、より正確に捉える為つて理由があるんだよ？ 束さんのウサミもあんなじ 私は本来、超遠距離砲撃型だから、やつぱりよつよつ遠くのより正確で精密な”ターゲット情報”がいるんだよ』

だが、狙われる心配のない”アクシズ”では、だ。

何といつか… その、束ねえのメタル・ウサミって、待機状態ではガチで…

”由ご普通のウサミ、なんだよーっ…！”

束ねえに言わせれば、

『だつて… いつちの方が可愛いやね?』

しかも、束ねえのウサミミは、俺とブレハの生体融合みたいに、機人ボディに直接ビルトインされてる物：

束ねえの感情や歌声や仕草に合わせて、ピヨ ピヨ ピヨ 動くんだぞつ！？

ちよつと想像して欲しい…

ピンクのワンピ+白いエプロンを着た束が、鼻歌を歌いながらオタマでシチュー鍋をかき回しながら…

「今夜はいつくんの大好きなシチューだぞ～い」

なんて楽しそうな鼻歌や手の動きに合わせて、白いウサミミがピコピコ動いてる姿を…

シチューと一緒に鬼を食べたくなる俺は、正常だよなつ！？

「おーい！ いつくん、聞いてる？」

”ハツ！”

どうやら俺はヘブンズ・トリップしてたらしくな
げに恐ろしきあは…

「束ねえの可憐者…」

「みやつ！？」

ぴーん！と跳ね上がるウサリリと真っ赤になる束ねえ…

何この變ぐるしい生き物…？

「いいい、いっくん！？」 い、今は授業中だから、そ、その…

「あつ、じめん！ 構わないから続けて」

「う、うん…えっとね、さつきいっくんが言つたコアの出力だけじ
やあ、EISの最大出力は捻出できないんだよ。確かに”エネルギー
保存の法則”には縛られないEISだけど、【魔力の物理力変換係数】
には縛られるから…」

「つまり、何処からか持つてくる…って事かな？」

「正解 じゃあ、どこから持つて来ると思つ？」

一夏は今度こそお手上げという顔をするが、束はイタズラつ娘のよ
うな顔で、

「束先生は、前にEISのコアを起動させる条件は、“何の出力”が

必要で言つたつけ?」

一夏はハツとした顔で、

「”リンクター”コア”!』

「またまた正解」

と、束は一夏が覚えていた事に嬉しそうに微笑むと、

「いつくん、ISはね、そもそも【ツイン・ドライブ構造】で設計されてるんだよ」

「ツイン・ドライブ?」

聞きなれない単語に首をかしげる一夏だったが、

「簡単に言えば、リンクター”コア”がジェネレータやリアクター、”コア”はコンデンサーであると同時にアンプやブースターなんだよ」

あんまり簡単には聞こえない束の説明に、

「…ビゅ」と…」

「ん~とね…魔導師が、自分のリンクター”コア”出力以上の魔法攻撃をしようと思ったら、大抵はある方法を使うんだよ」

束は、一度言葉をきると、言葉を探すような仕草をして、

「それは”集束魔法”って方法なんだけど…自分の周囲にある魔力を全てを術式でかき集めて圧縮／使いやすいように変質させて自分のリンカー・コアの産み出した魔力に相乗、【魔力合成魔法】として使う方法なんだけど…」

その単語の羅列を咀嚼した一夏は素直に、

「それ、ドーピングとかオーバーブーストとかと似たようなヤバげな匂いがブンブンするんだけど…」

すると、束は『タハハ…』と苦笑いして、

「うん。確かにあんまりお勧めはできないかな？”反動”…使った時の体への負荷が大きすぎるし…人間の体って本来、リンカー・コアから自己精製される魔力に対する強度しか持ち合わせない筈だし…」

厳密に言つなら、一瞬だけブーストする集束魔法ならまだしも、体の魔力体制に見合わない魔力幅射を長時間浴び続けると、かつての”八神はやて”やこの世界の束のように【魔力侵食】を引き起こし、命に関わる事態になるのだった。

「でも、束せんせーが”なのは”だった頃の得意技って、まさにその集束魔法砲撃だつたりして…テヘッ」

「束ねえ…」

「あ～ん！ いつくん、そんなにジト目で見ちゃいやあ～。と、とにかく話を戻すけどね、」

束は慌てて話題を戻し、

「その集束魔法のメカニズムをモーテリングして、ファーデバックによる負荷を術者じゃなくてISにかかるようしたのが…」

「ツイン・ドライブって訳だ」

一夏の解答に満足そうに笑んだ束は、

「正式名称は”デュアル・マギリング・ツイン・ドライブ（DMT-D）”…高町なのは”が、レリック技術の大家”ジェイル・スカラエッティ”と共に基礎理論を構築しながら、遂に完成には至らなかつたシステムだよ…でも…」

束は大きく胸を張る。

ついでに乳が”たゆん”と揺れ、一夏がそれをガン見したのは言うまでもない（笑）

「この世界の篠之ノ束さんは、ついに完成させたのだよ～っ！」

それは時を越え、世界すら飛び越えて受け継がれた【技術の結晶】…

そして、なのはと束…

二人で一人の少女の夢…

* * * * *

(セリフ…)

「高町なのはと篠之内束の”技術と夢の結晶”だった筈なんだ…」

だけど、それが世界を歪めたといつ、【歪んだ現実】…

「ブレハ、ジャバウォック…」

『どうしました?』

「束ねえの夢を踏みにじった世界の性みは、正とねばならない…やうだな?」

『それがマスターの望みであらむ』

『ここ返答だよ』

一夏は苦笑し、

「じゃあ、征くとするか……！」

『マスター。”転移魔法”で一気に飛びますか？』

「いや、今は下手な魔力消耗は避けたい……」

（地球で”挨拶”する余力はあるほど……）

一夏はイメージ投影される蒼き星を睨み付け、

「物理システムによる”疑似ボーズ量子化”と、魔法による”重力レンズ加速”を併用した【クアンタム・ジャンプ量子跳躍】を選択。”フェルミオン（実体）化”は、地球静止衛星軌道上の任意のポイントを算出し、設定

『了解：座標プリセット完了』

「ブレハ、速い仕事だ…デュアル・マギリンク・ツイン・ドライブ、エンゲージ！！」

『シンクロナイズ・マギリンク・デュアルコアシステム、リンクコア並びISコアを正常認識。リンク一コア精製魔力、ISコアにて通常加圧：マルチ・ブーストクアンタム・ジャンプ可能まで後74秒』

そして、その時は来た…

(征くぜ……束との平穏な日々をこの手に掴む為につーーー)

「ジャンプー！」

『Yes，マスター』

その日、1機のISが”アクシズ”より消えた…

それは、銀河レベルで見れば些細な…

だが、地球の…

人類の歴史にとつては、あまりに大きな出来事だった…

【体験版】第8話 & パート・かつて現は田舎の「」の心臓を語り、かくて

皆様、「」愛読ありがと「」やこましたm(—)m

IISのメカニズムが明かされる回で、実は人間のリンクアーゴアもHンジンの一部だつたつてオチでした～（＾＾；

実は、この設定があると、【HISの固体出力差】を説明しやすいといいメリットが（笑）

とりあえず、現在公開できる【俺束IIS基礎俺設定（笑）】は、これでラスト…じゃないかと（＾＾；

そして、いよいよ地球へ旅立つにつくん…

つて、いきなし量子跳躍するジャバウォック（笑）

コイツら、最初から規格外のスペックを隠す『ねえなーと（＾＾；』

さて、どうやら次回は最低でも【体験版】のラスト・バトル…果たして、どんな暴れ方をしてくれるのやら（＾＾；

それでは、また次回お会いしましょう（――）

【体験版】第9話 "・黒き魔獣は安らかなうし時代の墓碑の空へと

皆様、こんばんわー

何とか、日付の変わる前に更新が出来そうでホッとしてる暮灘です
（＾＾；

まずは、活動報告【重大報告・本日、手術します。】をお読みください
さつた皆様、心配なさつてくれた皆様、暖かい言葉を書きこんでく
れた皆様…

父の手術は、”とりあえずの成功”、”70%の成功”と呼べる物
で、まだ術後の経過を見ないとなりませんが、直ぐにビックリとい
う状態では無くなりました！

この場を借りて、先ずは感謝を。

ありがとうございました（――）

詳細は後日の活動報告、書き込んで頂いた皆様へのお礼の返信も翌
日以降に回をさせていただく事、ご容赦を。

おそれく暮灘の健在をアピールできるのは、作品を書く事だけです

から。

今回のHPソードは…

【体験版】の最終回の予定でしたが、地球降下からの流れが思ったよりボリュームが増えてしまい、最終回は次回以降に持ち越しとなつてしましました(^ ^) ;

ですが、”今の暮灘に描ける最大限に格好いいチーム一夏（一夏、ブレハ、ジャバ）”は書けたつもりなので、ご堪能いただけたら幸いです(o^ - ,) b

【体験版】第9話 "・黒き魔獣は安らかなうし時代の墓碑の窓へと

Just Get Buck Peaceful days...

(ただ、平穏な日々を取り戻したいだけ…)

どれほど酷い雨に撃たれても…

色褪せない熱い想い…

身体からだにみなぎりせ…

かつて少年だった者は帰つてくる…

”災疫の魔獣”としてつ…!

地球、静止衛星軌道上

「地球テラよつ！ 僕は帰つてきたあ——つ……」

『マスター、ジャバウォックに核バズーカは搭載してません。それに、その台詞はアーク・マスターの記憶によれば、宇宙歴0083【”レビル・フリーート”の叛乱】時、ソロモン襲撃犯の核テロリスト、”コウ・ウラキ”が発した台詞です。あまり縁起がよくありません』

「固いこと言つなつて。そういう気分なんだ」

『で、マスター…どういうプラン行くんですか？　このまま、量子跳躍や転移魔法で地上に降りるとは思いませんが』

それはそうだろう。

もしそうなら、最初から量子跳躍で地上に降りてるだろ？

「地上でHSの可能性を勝手に狭めてる連中に、再認識させるのさ…本来、HSがどこで使われるべくして開発された物かを、なつ！」

『具体的には？』

「ブレハ、マルチ・ロックオン・モード！　ターゲット選別、非核動力型軍用人工衛星を質量／容積順に選択！　”アクセル・シューター”で現状点から照準可能なそれを選別！」

『イエス。マスター』

「”人工の流星雨”をバックに、正面から大気圏降下だ。誰からもよく見えるようにな！」

『派手な演出ですね？』

「嫌いか？」

『まさか。ターゲット、オール・ロックオン・コンプリート』

「Ok…アクセル・ショーター、マルチ・ショット…」

もし、貴方が宇宙世紀のMS乗りで、そしてISがMSだとしたら、きっとそれは全身に装備された無砲身タイプの偏向メガ粒子砲の一斉射撃を連想させたであろう。

そう想わせるように、IS”ジャバウォック”の全身に、一夏の魔力がツインドライブで増幅&#amp;圧縮されて具現化した”白い魔力光球”が精製され…

『Stand-by, Ready』

「Fire!!」

『Salvo Burst（一斉射撃）』

その瞬間、白い光球が白光の弾丸となりて一斉に放たれたっ！！

束のカリキュラムはIS関係が大半を占めていた為、一夏は”魔導師として”は、さほど手札が多い訳ではない。

基本的に使える攻撃手段は威力の割には燃費が良く誘導や多弾同時

射出等の機能付与がしやすいシьюーター系、光線系の技で貫通力／威力共に高くバリエーションの多いバスター系、そして破壊力に特化した大技のブレイカー系の3つだけだ。

一夏の使つた魔マギカ・ブリット法弾は、基本となる【ティバイン・シьюーター】の上位技で、文字通りシьюーター（光弾）をアクセル（加速）化させる事で貫通力を上げると同時に、誘導能力を付与した場合には追従性や命中精度を格段に上昇させる技だ。

しかも、一夏はシьюーターに誘導能力だけでなく爆発属性（命中／表面貫通で内部に潜り込んだ後、エネルギーが残つてれば一気に解放する）を付け加え、シьюーターは一種の誘導”炸裂徹甲弾”として機能していた。

一夏とブレイブハート、ジャバウォックは”通常モード”でさえ、65556目標を捕捉し、1024目標を同時追尾し、その中の32目標に対して32発のアクセル・シьюーターを同時発射する事ができる。

しかも、トラック・ワイル・スキヤン…32発を発射したらそれで終わりではなく、シьюーターが1目標を撃墜する度、新しいターゲットが追尾されてる1024目標の中から選択され、新たなシьюターがロックオン・シьюートされる仕組みになっていた。

そして、衛星の破壊数が50を超えた辺りで、

「ブレハ、十分だ。”弾幕”が薄れないうちに突っ込むぞー。」

『Y e s , A l l R i g h t』

ジャバウォックを、機体の姿勢とスラスターの向きを変え、

『マスター、”エクステンション・シールド”ならびに”ディストーション・フィールド”展開完了。オール・システムズ、コンディション・グリーン』

一夏は一度大きく息を吸い…

「ガンホー！！ Y h a h ! ! 」

それは何とも世紀末的な光景だった…

碎いた50の人工衛星の破片…鋼鉄の集中豪雨の中を、空気抵抗で周囲を赤熱化させた”漆黒の弾丸”が、音速の10倍を超える速度で大気圏を切り裂き、突入してくるのだから…！

* * * * *

その時、間違いなく世界は混乱していた。

スパイ衛星や偵察衛星が突然、音信不通になつたかと思えば、それが地球に降り注いできたのだから。

大半は、大気との摩擦熱で燃え尽きると思われたが、中には燃え力になるのら不可能で、明らかに地表に被害を与える大きな大きさも相当数あつた。

そして、スクランブルで発射される対空迎撃ミサイルや発進する”^{メテオ・スナイパー} 対隕石”装備の戦闘機、そして各国のI-S...

誰しもが文字通り”降つてわいた天災”に、忙殺されてる最中…

『全人類に告ぐ。私は”織斑一夏”。地球の如何なる国家にも所属しない”アクシズ”よりの特使にして…』

”SOUND ONLY”という文字が浮かんだ軍用、民用を問わない全ての通信画面から、突然”それ”は流れた：

『全ての歪みを断ち切る”篠ノ之束の剣”なりつ！…』

* * * * *

太平洋某所

上空11,000m

本来、”そこ”は太平洋（平和な海）といつ名前を具現化したようなポイントだった。

何処までも広がる蒼い空と碧の海…

大自然の雄大さと美しさが、水平線に向こう側まで続く場所…

しかし、この地球という星に住む、国家や所属に関わらず、軍に關係した者全てに、そのポイント（座標）は、特別な意味を持つていた…

何故なら、そこは【世界の軍事的常識が根底から覆された場所】…

古き良き時代の…男が軍隊の主役だった時代の【終焉の地】…

そり…

”白騎士事件”の発生座標だった…!!

「そして今、篠ノ之束博士の名代として、現状における世界各國各勢力のIS技術を確認するため、此處に馳せ参じた…!!」

そう、一夏とブレイブハートが衛星を破壊したのは、何も”演出”や、地球のスクランブル迎撃システムを飽和状態にする眩ましの弾幕という意味だけではない。

実は、破片のスクランブル迎撃時の通信指揮統制用の政府や軍のエマージェンシー・情報ネットワークを計測／追尾／逆算し、その最も支配力の強い回線で、軍官民を問わない世界の主な通信チャンネルを乗っ取ったのだ。

それを用いて声明を発していたのは【平和な時代の墓碑】…少なくとも、一夏がそう考える”運命の場所”だった。

(一夏)から全て…世界の歪みがここから始まつたというのなら…

「それを断ち切るのも、ここから始めないと…」

『マスターなりのスジの通し方…と、解釈してよろしいですか?』

「ああ。人間っていうのは、ブレハやジャバに言わせれば非合理的みたいに見えるかもしれないけど…それが人。いや…」

一夏は、口の端を歪め、

「それが”俺”だ…！」

『なるほど…理解はできませんが、理解はしました』

「？？？」

不思議そうな顔をする一夏に、プレイブハートは、何故か笑ったような気配と共に、

『大した事じやありません。ただ、私もジャバも、そういう我々には無い非合理さが嫌いではないと理解しただけです』

「ブレハ…」

『それよりマスター。要求の突き付けが残つてます』

「やうだつたな…！」

プレイブハートの出した”マイク接続、OK”のサインのもと、

「我が要求は、ただ一つ!! 世界の如何なる組織／国家の介入も許さぬ”IS学園”への滞在と編入の許可を求めるものなりつ！！」

そして、虚空を睨み付けるように、

「返答やいかに…」

* * * * *

『マスター、素直に要求を飲むと思いますか?』

「まさか! 素直に飲むくらいなら、”白騎士事件”も起きなければ、東ねえが地球を逐われる事も無かつたさ」

『なるほど…道理ですね? 早速、リアクションが有りました。空対空、地対空、艦対空型のミサイル多数接近。数は2341発。おそらく、搭載されるのは自己鍛造散弾式の対ISクラスター(多弾)弾頭でしょ?』

ブレイブハートの分析に一夏はつまらなさげに「フン…」と鼻を鳴らし、

「飽和攻撃でシールドを削りつて事か。大方、強引に武力対処を

強行したのは、IS開発から外されて冷や飯食らいに回された兵器産業と、そこから献金を受けた高級軍人だろうな」

『もし破壊できたなら、【あの篠ノ之博士の最新鋭ISも撃破できた】とIS無敵論の破綻を喧伝し、兵器開発の天秤を再び自分達に傾け、よしなば破壊できなくとも、生け捕りなし戦闘データの収集だけでも出来れば自分達もIS開発に加われ、上手くすれば現行のISメーカーからリードを奪い、再び兵器開発の主役に返り咲く…というところですか?』

一夏は皮肉げに唇を歪め、

「いかにも俗物風情が考えそうな事だろ? でも、まあ…」

笑みに獰猛な何かを混入しながら…

「連中の思い通りに動いてやる義理はないよな?」

きつと、いまの一夏を見たらあなたは驚くだろ?…

地球の衛星軌道上に現れた瞬間から、瞳に燃え盛るような熱く鋭い眼光を湛えた一夏だつたが…

体内に山ほど注入したナノマシンの影響だらうか?

その両目は、複雑な光彩を描く”金色”に輝いていた…

戦いはまだ終わらない。

地球人類が織斑一夏という存在の力を知るには、まだステージ（舞台）が足りていなかつたのだから…

【体験版】第9話 "・黒き魔獣は安らかなりし時代の墓碑の空へと

皆様、『J愛読』心配、励ましのお言葉をありがとうございました
m(—)m

とりあえず、活動報告への返信は明日に回させて頂き、本日は投稿を優先させていただきました(—)

感謝の言葉をお返しするのも大事ですが、待っている皆様に作品をお届けするのも大事と考え、このような判断となりました。

さて、次回はバトルシーンの後半戦…おそらく今度こそ【体験版】のラストになると思います。

そして、可能なら【正規版】執筆に関する問題点を提示した上でアンケートを取りたいなと(へへ；

それでは皆様、また次回お会いできるのことを祈りつつ、改めてありがとうございました(—)

【体験版】最終話

最終話 & サボタージュ、おお、Jの母は素晴りしき場所なれどJも

皆様、Jんばんわー

本来ならこちにちわー の時間にあげられた物を…【なるつ】の誠意の感じられない対応に、ブチ切れかけてる暮灘です(—)

わ、記念すべき最終回に、おせかこんなオチ(詳しく述べ、10／27の活動報告にて….)になるとは思いませんでしたが…

とつあえず内容は、本当に【プロローグ・Hンド】っぽいです(×
^ :

そして、一夏とブレハ、それにジャバの強さや禍々しさが出てれば
なあ～と(×—× :)

実はJの後、とある原作ヒロイン視点からのプロローグにある【EXステージ& amp;アンケートハガキ(笑)】をアップしたかつたんですが、冒頭の事情により時間的にもテンション的にもかなり厳しくなりました(泣)

頑張つても今夜遅く、遅ければ明日のアップになってしまいそうですが、お待ち頂ければ幸いです m(_ _) m

実は、読者の皆様の「」意見を聞いた上で、【正規版】を書くかどうか決めよしとおもいまして(;^一^ A)
ご協力いただけたらとても助かります

蒼き星に火を放て！

紅蓮の炎で染め上げる……

歪みを薪にし窯にくべ、新たな創世を生み出す為に……

全てを燃やし尽くすのだつ……

* * * * *

一夏の双眼が金色に輝く……

それは、ある事象を意味していた。

つまりは、”体内注入ナノマシンの活性化”だ。

目は人体の中でも特に神経の集中する場所：

人間の神経にそつてニユーロン・ネットワークを形成する一夏のナノマシン、一種の”魔導式量子アセンブラー”が瞳に集中するのは当然だ。

そして、ナノマシンが活性化する時は、高速演算処理の為に擬似的に”光ニユーロ・バイオチップ”型の集合分散量子脳を擬似的に構築する為、僅かな発光現象が起きる。

一夏の体内注入ナノマシンが活性化してゐる理由は、ジャバウォックならびにブレイブハートから、魔導式ログ・イメージ情報としてリンクーコアへ、デジタル数値情報として非接触インターラクティブ（双方向）・インターフェースとしても機能ナノマシンへとそれぞれ流入入を繰り返していた。

魔導師として訓練を受けた為、”マルチタスク”が可能となつた一夏の脳は、リンクーコアよりの情報処理に集中し、機械的な情報はナノマシンが擬似的に構築した量子演算集積回路で処理する…

では、これ程膨大な演算能力を使い、一夏は何をしてゐるのだろうか？

皆さんは”バーズ・アイ”という言葉をご存知だらうか？

日本語で言えば、”俯瞰”^{ふかん}…つまり、【自分を中心とした全方位三

次元画像を遙か上空から第三者的（鳥が上空から自分を見る視点）に見てる【ことだ。

そう、一夏の金色の瞳は、普通の”人間としての視野”以外に、全方位から自分をめがけ飛んでくる2341発のミサイルを、詳細なデータ+発射された後の航跡と予測進路付きで”見て”いたのだった。

一夏は、微動だにせず、おもむろに告げる。

「”ディバイン・シューター【ファランクス・シフト】”

『Yes , Master』

ブレイブハートの返答と同時に、ジャバウォックの周囲に32個の魔力球体が生成される。

ちなみに32という数は、ジャバウォック本体表面に埋め込まれた”赤色魔眼”^{ルビー・アイ}と呼ばれる赤い結晶状の【魔導式多目的発生器】の数と一致する。

ジャバウォックの周囲に32個展開した白く輝くオープ…

それは、先ほど衛星群に放つた”アクセル・シューター・マルチ・

ショット”の発射光景に似ているが、全く違うところが2つあった。

一つは、オープが直ぐに弾丸状になり射出されたが、今は時折位置を移動しながら周囲に浮遊してるので。

もう一つは、その大きさだ。

アクセル・シューターの時は、精々ソフトボール大だったオープが、今はバスケットボールよりも大きい…

『マスター、弾種はどうします?』

「貫通後に破裂のA P H E（破裂徹甲弾）モード。ただし、破裂時のエネルギーの半分を電気変換」

『ラジャー』

I Sと聞いて皆さんには普通に”インフィニット・ストラトス”と考えるだろ?。

しかし、篠ノ之東が高町なのはだつた頃… I Sといつ略語には、全く別の意味があった。

それは、”インヒューレット・スキル”：

戦闘機人達がもつていた”先天的固有能力”の事だ。

おそらくは【多くの平行世界】を知る皆様の事だ。

今は時空世界アイドル・ユニット【にゃんぱーす】として活躍しているだろう彼女達12人姉妹の一人が、【イノーメス・カノン】といつエスをもっていた事を覚えておいでだろう。

【イノーメス・カノン】とは、”自らイメージした性質の砲弾を精製する能力”の事だ。

そして、それを機械工学的に再現し、徹底的に機能拡張した物が、32基の”ルビー・アイ”の複合統制システム”シャブラングドウ・ユニット”に搭載されていた。

そう、少なくとも【魔法攻撃】では、ジャバウォックは術式を複合的に割り込ませる事により、”本質を変えないレベル”ならば、様々な種類の属性や特性を付与する事ができるのだ！

『マスター、イン・カミング・アワー・レンジ（敵弾、我らの射程に入りました）』

「オール・ファランクス、オープソ・ファイヤッ！－！」

『Rapid Barrage - Start（速射弾幕、開始）』

もし、あなたがこの戦いに全くの無関係で、尚且つこの戦いを見る立場にあつたのなら、きっとこれは素晴らしい見世物に映つただろ

う。

何しろ32基のオープから毎秒8発のレートで純白の光弾が放たれ、その弾が弾道修正（誘導ではない）しながら次々とミサイルの先端に飛び込み、内部で破裂し誘爆させるか、破裂と同時に発生した高圧電流で内部の電子機器を焼き切り、撃ち落していくのだ。

射撃時間は約12秒。

発射されたディバイン・シューターは3000発超…

そして、空には…

『マスター、全弾撃破を確認しました』

「第一波は？」

『今のところ、その予兆はありません』

空にはただ、漆黒異形のI.S…ジャバウォックのみが残っていた。

たった12秒で、小さな国の国家予算に匹敵する額の高価なミサイル群を無価値な鉄屑に変えたそのI.Sは、驚いた事に射撃開始から1mたりとも動いてない…

「圧倒的ではないか…我がジャバウォックは」

『 総合参謀長時代のギレン・ザビのパロディなら問題ないでしょ 』

ちなみにこの台詞、一年半戦争末期、最後の天王山である”ソロモン防衛戦”に勝利したジオン軍が、ソーラーレイによる超遠距離砲撃でジャブローを焼き払った時の台詞のパロディだ。

「 ところでフレハ…データリンクから、ミサイルの発射基地、母機、母艦の特定はできたか？」

『 当然、終了します。セキュリティ・コードも掌握済みです 』

あの演算能力は、何も”たかだか”2000発ぢょっとのミサイルの迎撃の為に使われていたのではなかつた。

その2341発のミサイルにデータ送信して、中間誘導を行なつていた”発射元”を特定する為にも使われていたのだ。

「 上出来だ。なら、発射元にある全弾を起爆。ただし、通常弾頭のみだ 」

『 ラジャー。氣化爆弾やナパーク弾は通常兵器に入れて構いませんね？ 』

「 ああ。構わない。1発残らず吹き飛ばせ。徹底的に跡形もなく：な！！ 」

『イエス、マスター。世界中で”汚い花火”を打ち上げます』

ブレイブハートの言葉通り、ジャバウォック・織斑一夏に向けミサイルを放った全ての施設、艦船、航空機が…

ある物は地下や土台から吹き飛びクレーターとなり、ある物は乗員が誰一人脱出する前に轟沈し魚の餌と住処になり、またある物は宣告通り”汚い花火”となり破片を地上に叩き付けながら飛び散った…

おそらく、これをサイバー・テロと捉えるなら、史上空前の規模の…少なくとも、たつた一度のテロで最も多くの軍人を一階級特進に追い込んだ事例であろう。

「全世界に告げる。以後、私に対する全ての戦闘行動は、織斑一夏のみならず”アクシズ”に対する宣戦布告とみなす」

そして一呼吸置くと、

「これは最終通告だ…以後の譲歩や妥協は一切無いと心得よつ…!
俺は全面戦争も辞さないと言つてゐるつ！…！」

それから5分後。

世界IS最高評議会において、満場一致で織斑一夏を”アクシズ”という未確認勢力ではあるが、特例として特使と認め、一種の治外法権である【IS学園】への無期限滞在が認める声明が発布された。

そう…

世界はたつた一人の人間と、たつた1機のISの前に屈伏する形となつた…

今、あなたは歴史の証人であり、目撃者となつた…

なぜなら…

これが後に”白騎士事件”と対に語り継がれる…

【黒騎士事変】

の全貌なのだから…！

世界は、少なからず混乱した。

世界各国は、只の一度のクラッシュで破壊された兵器や施設の再生産や穴埋め、更に殉職した将兵達への遺族見舞金だけでも頭の痛い問題だろう。

マスコミ対策とせねばならない。

集団心理と情報操作に踊らされる大衆とは、常に不安定な物だから…

しかし…

『あの圧倒的な力…』あれ”を手に入れれば、我が国はっ…』

『男のIS乗りだとつ！？ クッククック…DNAサンプルの一欠片でも入手できれば…』

『『『』なんとしても、イチカ・オリムラとあの黒い工房を手に入れるのだつ！－ 手段は選ばんでいいつ！－』』』

世界は少なからず混乱していた。

しかし、それでも変わらない…

いや、変わらざとしない物もあるし、者もいる…

しかし、人よ忘れる無かれ…

一夏が愛しき飼い兎を置いて、何故に”樂園”を飛び出たのかを…

一夏は言つ。

自分は、篠ノ之束の護り刀だと…

束を傷つける全てを断つ剣だと…！－

そして今…

剣であり、黒騎士でもある…

”魔獸の叙情譚”

が幕を開けよつとしていた…！…

To be … ?

【体験版】最終話 & サボタージュ

皆様、『J愛読ありがとうございました』（――）

とりあえず、一夏や末視點で語られた【体験版】は、これで一旦終了となります。

最後は、ド派手に極めたつもつですが…

一夏&ブレハ&ジャバの”三位一体の強さ”は上手くわざいましたでしょうか？（＾＾；

何か小説の”外側”で色々有りすぎて、普通と違う意味で幸か不幸かとも思ひ出深い作品になってしましました（＾＾；

そして向こう…

とりあえずでも、こうしてゴールに辿り着けたのは、皆様のご声援やご感想があつたからです…！

改めて、今まで『J愛読をありがとうございました…』（――）

皆様、本日一度田の「んばんわー」の暮灘です。

改めまして、”俺束”を今までじ愛読ぐださり、ありがとうござ
ました m(—)m

勢い任せで書いていたら、予告していた【EXステージ】が完成し
てしまつた（何故に！？）ので、書いて頂いたご感想に返信する前
になんですが、緊急アップをさせていただきます（—）

また後半のアンケートハガキ（？）が後書きを兼ねてるので、今
回は後書きを割愛させていただきます。

もし、皆様のご意見を聞かせていただけたら、暮灘は本当に助かり
ます m(—)m

欧洲某国、とある街の路地裏…

(何故だ…なぜ振り切れない)

自分を追い掛けてくる不気味な気配に、その女は恐怖で顔を歪ませていた。

(どうして、この私がおめおめと逃げ出せないとならぬ！？)

”彼女”には、今回のテロを成功させる絶対の自信があった。

自分には、違法改造で強化したISはあつたし、世界各国の警戒網は”黒いIS”的一連の騒ぎの余波を受け、混乱を極めていたからだ。

男が自分と同じHISを使い、非公式ながら現在確認されてるあらゆるISよりも高い性能を発揮したという事実は、腸が煮えくりかえる程腹立しかつたが、今回の”仕事”に関してだけは、毛先程には感謝してもいいと思つていた。

「だけど……」

どこのをどう間違えたのか、自分はテロを成功させるどころか、まるで地面に這いつぶばるよつに、不様に逃げ回っているのだ…

（全部、”あの音”が聴こえてからだー）

”あの音”が聴こえて瞬間から、全ての歯車は狂いだしたと彼女は考えた。

その時だ…！

” リンツ ”

” ゾクツ ! ! ”

その”鈴の音”が背後で聴こえた瞬間、純粹な恐怖が背中を走り抜ける！

反射的に振り返った彼女の眼前に迫っていたのは…

「なんだ？ 鬼ごっこはもう仕舞いか？」

【それ】は、傍田には背が高いく美しい、【ただの少女】にみえる。

整つた顔立ちに冷静沈着な光を湛えたややツリ気味の涼しげな田元、
ポニーテールに結わえた綿糸のように艶やかな長い黒髪とE.S学園
の純白の制服が、暗がりに居てもなお、更に少女の魅力を引き出し
てるように見えた。

しかし、その少女が”普通ではない”事を物語る物が一つだけあつ
た：

それは、彼女が左手の細い指で握る白鞘の”日本刀”だ。

しかし、ただの日本刀ではなさそうだ。

白木の鞘に白木の柄^{つか}。

しかし、刀身と柄の長さが尋常では無い。

刀身はざつと四尺で太刀揃え、柄は一尺五寸のいわゆる”長束の剣
”だ。

そして、柄には真っ赤な組紐で”金と銀の小さな鈴”がくくりつけ
られていた。

「ならば、今度は”死々舞い”でも踊るがいい」

少女は…いや、”少女に似た別の何か”と表現したくなる”それ”

は居合の構えを取ると、

「最後に言つておぐが、名乗る必要はないぞ？ これから斬られるテ口屋にも…」

少女らしき者は一タリと嘲わらうと、

「これからその首を貰うい受けろ”人斬り”にも名などいらん」

「抜かせつ！」

女テロリストは、吼えると同時にEISを展開する！

挑発なのは目に見えていたが、一刻も早く世界一安全な”筈”の甲冑へと逃げ込みたかった！

しかし…

「つまらん」

”シユツー。”

微かに空氣を揺らすような最小限の動き…

少女の肢体からだが微かにぶれたように女テロリストには見えただけつ。

だが、EISの警報サインを聴く前に…

「なつ！？」

少女は、吐息のかかりそうな位置にいた…

「秘剣…」

少女は微かに呼吸を整え、

「”燕返し”…！」

”パリイイーン！ ザシユツ！”

それは、正に刹那の刃閃だった！

そして、同時に信じられない光景でもあつた…

少女の放った秘剣”燕返し”…
確かに見事な太刀筋ではあつた。

だが、だからといって”一の太刀”でEISのシールドを切り裂き、
返す刀…”二の太刀”で…

”『ロン…ブシャアアアアツ！』

I.Sの装甲」と首を斬り落とすなど、可能なのだろつか…？

「フフッ」

血に濡れた刀身を半ばウツトリ見る少女は、

「『ひいう姿じで、”紅椿”の名に相応しいとは思わないか？』

『その通りです。マスター』

返答したのは、刀？…いや、金銀の飾り鈴のような気がしなくもないが。

しかし、それを確かめる間もなく、

『^{まづき}第、聽こえるか？』

と、通信が入る。

「ああ、”千冬”さん。ちょうど今、始末が終わつた所です。予想通り、隠し持つてたI.Sで抵抗されたので、”已む無^やく”斬りました。犯人の捕縛には失敗しましたが、I.Sコアの確保には成功です」

『”已む無く”という言葉が仕事をしてないぞ？ いつも言つてるだろう？ 余裕が有るなら、可能な限り捕縛しようと』

通信機越しの千冬の呆れるような声に、

「E.Sをいきなり出されて処女のように震えてたんですよ。まあ、誰かさんの弟さんに力任せに奪われたせいで、処女ではありませんが」

しかし、そういうながらも少女の『篠ノ之箒』は、心中で、

(『『姉上』と同じ匂いに酔つた』なんて殺し文句を言われたら、大人しくケダモノの餌になるしかありませんけどね)

『フン…まあいい。それより箒、本国…いや、正確にはE.S学園へ帰投命令だ。しかも内々だが、日本政府から直々にさ』

「フフッ…日本政府も所詮は野望を捨てきませんか？ 正直で結構ですね」

通信を切ると程なく現れた”回収班”にコアと、カツと恐怖で目を見開いた女の生首を投げ渡し、箒は闇に身体を融かすように歩き始めた…

(一夏…合つのは、あの時以来か?)

一夏、いい漢になっているか？

一夏、姉上のところいたせいでもぐだらない男に成り下がつてないよな？

(だとすれば、会った瞬間にお前を斬つてしまこうだよ…)

一夏、私はお前をそんなつまらない理由で斬りたくないんだ。

だから、一夏…

(どうか、私を諭しませてくれよ?)

* * * * *

アンケートハガキ(?)

皆様、今まで”俺束【体験版】”を”J”愛読くださり、ありがとうございましたm(—)m

さて、本来ならば【正規版】に続く筈なんですが…

大きく言えば、一つほど問題がありまして(へへ；

(一) タイトルとの矛盾

【正規版】では、原作との合流の為、【HIS学園】が舞台となる為、
束の出番が激減するんですよ(へへへ)

(2) 代わりに の篇が1st幼馴染みならぬ【2nd ダーク・
ヒロイン】的な感じに…

間違いなく不動のヒロインは束なんですが（^_^；

束と笄は白と黒。

対比や対極でキャラ決めしてたら、いつの間にかやたらダークで濃いキャラに（・_・；

”サムライ・ビッチ”だの”人斬り笄”だの”首狩りポニテ”だのとやたらに物騒な二つ名が付きそうな笄が、果たして皆様に受け入れて貰えるか？という不安が…

別の理由をあげるとするなら、断言してもいいですが…更新が”すりっしゅ！”以上に遅くなります。

ところのプロット…キャラの立ち位置とかを含めたその完成率が、ヒロイン」と」バラバラなんです（汗）

下手をすれば、一夏の台詞しかプロットが無かつたり、中華に至つちや、まだキャラもあやふやだったりするんです。

逆にラウラなんかは【笄との兼ね合】があり、ほぼV-T暴走の再構成シナリオが出来てたり（登場、一番遅いのに…）

シャルも…

【シャル解放 一夏、フランス大統領に…】

みたいなプロットがあります（^_^；

せつしーは、原作とあんまり立ち位置が変わらないけど、俺束の一
夏と篠は、口が悪いから（苦笑）

とにかく、これが現状で決まってる【正規版】のコンセプトと問題
点ですが…

読者の皆様、こんな【正規版】ですが、読みたいでしょうか？ あ
るいは止めるべきでしょうか？

もし、ご意見をお聞かせ願えたら幸いです。（――） m

【正規版】 プロローグ： ・かくも世界は不浄なる場所なればこの

皆様、こんばんわー

”俺束”の作者の暮灘です（＾＾；

予想以上に文章が伸び、深夜アップとなつてしましましたが…

お待たせしました！！三（――）三

皆様の暖かい声援を受け、それを支えに後押しし、【正規版】をリースいたします（○^ - ^）b

今回は、プロローグらしく千冬と篠のみの登場で、一人の過去…ある意味、”物語のもう一つの根幹”が簡単にですが語られます。

そして、かなりシリアスです。

これは、【体験版】と【正規版】が趣きの異なるストーリーだとご理解頂ければなあ～と（^_^；

時間が時間だけに皆様に読んで戴けるか激しく不安ですが、待つて
頂いた皆様が楽しんでいただけたら幸いです（。^ - ^。）b

【正規版】 プロローグ： “かくも世界は不淨なる場所なればこの

HST（極超音速旅客機）、日本政府チャーター便

日本と欧州大西洋沿岸各国をせいぜい3時間前後で結ぶ超音速旅客機：

軍需産業がIISを除き全て下火となつたこの時代において、既に数がめつきり少なくなつた【少なくとも大気圏ならIISより速く飛べる友人機】という、このひどく豪勢な代物の乗客は、たつた一人しかいなかつた。

否、正確にはこの”たつた一人を帰国させる”為だけに、このチャーター便は用意されていた。

「わざわざHSTをチャーターするとは…」我らが祖国”の慌てぶりが手に取るようですね？”織斑隊長”

少しあじけて黒髪ボーテの少女が言えば、

「そう言ってやるな”篠ノ之国連特務中尉”。それと、”我らが祖国”という言い方は、日本とやらを名乗る国の領空に入るまで謹

んだ方が良いぞ？ 噛によれば、我々は”このバッジ”を付けてる時は…」

と、自分の襟元に付いてる【CNC-EISSM】と彫り刻まれたバッジを親指で指し、

「国籍など関係無く世界人類の公僕であり、一国の為のみならず、世界平和とかいう妖しげな代物の為に滅私奉公せねばならないらしいからな」

と、半ば嘲笑うよつた口調の”織斑千冬”に、”篠ノ之簣”はまるでタチの悪い冗談でも聞いたよつた顔で、

「ISの開発国責任とやらを外圧によつて飲まれ【IS学園】を作られた挙げ句、今度は国際貢献の建前の元に、再び外圧に負けて私と千冬さんのたつた一人を人身御供として国連へと差しだし…」

簣は口の端を歪め、

「今度は本国に火が付いたら、慌てて帰つて来いですか…随分と頼りになる国ですことで」

笑顔と呼ぶには獰猛過ぎる表情で…

「手が滑つて、思わず潰したくなる程に」

「フフフ…簣、毎度言つてるが、別にお前までEISSM…エンカ

ウンター＝Sシャドウ・ミッション（対IS極秘作戦）に参加する必要は無いんだぞ？【IS学園】で大人しくしてもらつても、一向に構わんのだがな？」

すると篝は、芝居ががつた驚いた顔で、

「何を仰られます千冬様！ 政府の”要人保護プログラム”の名目で囚われの辱しめを受けていたこの篝を、モンド・グロッソ連霸という偉業を盾にとり政府と交渉の末、我が身を拾つてくださつたのは…他の誰でもない。千冬様ではござりませぬか？」

そして、姉には劣るが巨大と言つて差し支えない胸を張り、

「犬さえ三日飼えば恩義を忘れぬと申します…であればこそ、この篠ノ之篝、例え”雌狗”^{めすいぬ}に身をやつそと、犬にも劣ると言われたくなき所存」

無茶苦茶時代がかつた…というか、時代劇その物の言い回しをする篝に、千冬は軽く溜め息をつき、

「やめんか。むず痒い…それで、毎度ついてくる言い訳、もしくは本音は無いのか？」

と、千冬が切り返せば、篝はいつものシニカル・フォイスに戻り、

「単にこの『時世』、合法的に”人斬り”ができるチャンスなんて、滅多に有りませんから」

まるで、某銀河の妖精みたいな事（内容はひたすら物騒だが…）を言に出してから、

「しかも、相手が工事ともなれば、願つてもないです……」

と、四尺の刀身を白鞘に収めた、金銀の鈴が結ばれた堂々たる”長柄の大太刀”を愛しそうに見つめ、

「【紅椿】と【”ハンプ”】を”進化”させる、またとない餌になりますから」

”ハンプ”とは？

いや、それはまだ語るべきではないだろう。

しかし、一夏がブレイブハートとジャバウォックという”三位一體”を組んでいるのと同様、篝もまた自分なりの【トリニティ・システム】があるようだ。

もっとも、それが一夏のそれと同種同様の物だとは限らないが……

* * * * *

この二人…

織斑千冬と篠ノ之箒といつ黒髪の美女と美少女に関して多くを語る必要があるだろ？。

まず、二人が所属してる機関・いや、世界をステージに例えるなら、『えられた【役回り】から話すべきだろ？』

バッジに刻まれた【UN - EHSSMT】：

UNは、言つまでもなく”国連”。

EHSSMTは、千冬の台詞に一部が出てきたが、【エンカウンタ - IIS・シャドウ・ミッション・チーム】…つまり、”対IIS極秘作戦部隊”という意味になる。

繋げると【国連直属対IIS極秘作戦部隊】：

語義的には、

”何処の国にも属さない国際的に違法活動をする犯罪IISを、同じく何処の国にも属さない面子が狩る為に結成された部隊”

簡単に言えば、”ヤバいIISを秘密裏に狩り取る、国連直属非公開の血生臭い【掃除屋】集団”だ。

別に『簫だけに掃除屋に付き物』という訳ではなく、簫が千冬と共に

にその場にいるのも、当然のよつと相応の物語がある。

詳しきは、いづれ語られるかもしれない……多分だが。

平たく言えば、簾の台詞そのままだ。

それは、一夏が誘拐され束と一緒に暮らすきつかけとなつた第2回モンド・グロッソ決勝直後まで遡る……

なんの波乱もなく連霸を果たした千冬は、それを盾（あるいは餌）に、日本政府と交渉し、簾ノ之簾の身柄を自分に預けるよつに談判した。

動機は、単純だった。

『一夏と束が孤独から解放されよつとしてゐるのに、簾のみが孤独のまま隔離される道理はあるまい?』

千冬の真意が本当はどこにあつたのかは、知る術はないが、とにかくそのよつな理由で、千冬はそのよつに政府に迫つた。

ちなみに決め手となつたのは……

『私の要求が受け入れられないのであれば……そうだな。私は、日本

にあまり良からぬ感情を抱く國へ、『ハリ』と赴くとじよつか?』

多分それは、”**恫喝**”といつ交渉術（笑）なのだろう。

一方、籌と言えば…

”問題児”といつ言葉の枠組みを超えた【脅威】として政府に認識されていた。

再会した千冬にすり、

『あの時の筹は、まるで”手負いの獣”のような気配を出していたな』

と言わしめた程だ。

何しろ収容施設の誰ともまともに話さうとせず、ただ【姉上より賜つた大太刀】を振る日々…少なくとも、傍目からはそう見える状態だった。

そして、筹には決して看過できない”前科”があった。

そう……”大太刀”絡みで、だ。

どのような経緯かは知らないが、その口…

筈は、誰も見覚えのない一振りの大太刀を携えていた。

当然、彼女がそんな”危険物”を帯びる事を許可できない護衛兼監視役は、それを制止し、取り上げようとする。

そして、それを成そうとした瞬間…

監視役の首から上は、痛みすら感じる前に地面上に落ちていた…！…！

それが”虐殺”のゴングとなつた。

戦闘訓練を受けた筈の者達が、為す術もなくある者は身体を左右に分割され、またある者は上半身と下半身に輪切りにされた…

監視役や護衛のみならず戦闘員／非戦闘員を問わない職員全てが、”一ソゲンだつた無意味な肉塊”に変えられるまで1時間足らず…

そして、収容施設は地図から消えた…

その時、異変を察知して駆け付けた政府職員は、こう語る。

『あれ程に異常な光景、私は生涯忘れられないでしょ』

むせかえるような徹錆臭い血の匂いと、肉の焼け焦げる匂い…

燃え盛る紅蓮の炎を背景に、全身を返り血に染めた少女は…
大太刀を片手にし、”嘲笑”していた…

「私と姉上の”絆”を踏みにじろうとするからだ…当然の報いだろ
？ ククク…アハハハハハハッ！！！」

と…

政府の上級職員に気が付いた筈は、クルリと振り返り、

「安心しろ。氣は済んだよ」

と、極めて冷静な声で告げ、

「じゃあ、交渉を始めよつじやないか？」

筈が出した条件は、誰もが拍子抜けする程、シンプルだった。

「姉上との縛を取り上げようとするな。それは私にとって”逆鱗”…そうしなければ、今まで通り大人しくもしていよう

政府は、当然の如くにその条件を飲んだ。

銃刀法にさえ目を瞑れば痛くも痒くもない条件だつたし、何も考えずに要求を断るには、筈はすでに危険過ぎる存在になつていたのだつた…

そして、筈が連呼する【姉上】とこうキーワード…

もし、あの太刀を製造したのが【セカイを狂わせた魔女】だとするなら…

何らかの方法で筈に譲渡し、それが虐殺の引金に…

いや、それどころかこの虐殺さえも”あの魔女”的の差し金では？

政府がそう疑心暗鬼になつたのも無理はない。
以降、この事件：

”敦賀山荘千人斬り” 事件

は、政府の中では【無かつた事】にされ、筈は”束のトラップ”として認識され、一種の”危険因子”として扱われるようになったのだつた…

そのような状態だった筈を、千冬は欲した…

確かに、一人共に【魔女の関係者】であり、会わせるのは危険とう考え方もあつたが、結局は事無かれ主義の政府の大勢が押す…

【どうせ一人とも危険因子なのだから、まとまつていた方が管理しやすい】

という方針に落ち着いた。

そして、政府の重鎮の誰かが、

『危険因子を一つも国内に置くのは遺憾。ならば、前々から外圧を

かけられていた”国際貢献”とやらの名目で、半国外追放にしてしまえ。国内の住処も、建前では”何処の国でもない”筈の【HS学園】に限定すれば一石二鳥』

と言いました。

政府は、その魅力的な提案に反対する理由は無かつた…

かくて、千冬と篠は先ずは一夏誘拐事件の情報提供の恩義を返す為にドイツへ渡り、以後国連の職員として、任務の度に世界を巡り、【HS学園】へ戻れば教師と生徒という顔で時を過ごすようになつた。

かくも世界は不純にして不淨なる場所なればこそ、千冬も篠も今は機上の人になりにけり…

そして物語は、ゆづくじと始まろうとしていた…

【正規版】プロローグ： かくも世界は不浄なる場所なればこの

皆様、じじ愛読ありがとうございましたm(—)m

事前予告が一切無しのゲリラ投下（笑）をしてしまった暮灘です（
＾＾；

いや、実は暮灘自身がまさか日付が変わる前にアップできると思つていなかつたので、こんな形になつてしまひました。

いや、勢いつて怖いですね～（苦笑）

さて、思い切り【体験版】と趣向が違つ描き方のプロローグでした
が…

皆様、如何だつたでしょ？

本格的に物語が始まる前に、2ndダークネス・ヒロインの籌のキヤラを確定しておきたかったのと、世間（特に日本）の篠ノ之姉妹や千冬の評価や、彼女達の立ち位置を明確化しておきたかったので、こんなエピソードになりました。

多分に見切り発車な部分が多く、更新も速くないかもしがれませんが、
【体験版】同様にじじ愛読いただければ、作者としてとても嬉しいで
す（○へー、）b

それでは、また次回お会いできる事を祈つゝ（一）

【正規版】第1話 &part・永世中立の地にて鬼は崇拜され、黒き魔獸は#

皆様、おはよ'りやまーす

何とか前にアップできんつで「機嫌な暮灘です（へへ；

今回は、原作を基準にするなら、全く【ヒラシからぬジビアなエピソード】かもしません（汗）

シリアルスじゃなくてシビアと書いたのは…

前半が白騎士事件の後…束が地球から姿を消すまでの世界の動きです。

後半は、本来は重要な機関（モンド・グロッソの主催者だし…）なのにあんまり詳しく出てこない国際IIS委員会の成り立ちっぽい物が一夏視点で語られます。

言い方を変えれば、前半が世界が歪んだ経緯で、後半が歪みが恒常化した現在…のような感じでしょうか？（へへ；

キーワードは、まんまズバリ”歪み”です。

原作の趣向には合わない、【HS学園の外側に口常的に蔓延する怪
んだ世界】みたいな雰囲気が、少しでも皆様に伝わればなあ～と思
つてます（^__^；）

実は作中に、一つずつ千冬と束の過去の台詞が出てくるんですが、
それぞれ別のベクトルで気に入つてたりして（^__^；

それでは、お楽しみいただければ幸いです（○^__^，）b

【正規版】第1話 “永世中立の地にて鬼は崇拜され、黒き魔獣は

スイス、ジュネーブ

国際IS委員会本部

”白騎士事件”の後、【新たな世界秩序の象徴】となつたIS、その世界規約を策定する【国際IS委員会】の本部が、永世中立国のスイスに置かれたのは、様々な政治的な理由がある。

それは…

【試験飛行中だつた自家用試験機のIS “白騎士”を問答無用で攻撃するような野蛮な国にISの情報を公開する事は、断固として反対する】

という趣旨の…全く正当な声明を、IS開発者の篠ノ之束”博士”と、1stパイロットである織斑千冬が、世界中のメディアに発表した事に端を発する。

勿論、それが面白くないヤンキーは、”属国”日本に外圧をかけ、それがあつさり屈した日本政府は、内務省特殊任務部隊”SST”を送り込み、施設と束と千冬の身柄の攝取と拘束を試みたのだ。

米国のスパイ衛星が捉えた束のラボをSSTが強襲したのは、そのような経緯があった。

だが、束や千冬の姿は既にそこには無く、ラボにはEISに関する最低限のデータと【極秘裏にコアが入れ替えられた】白騎士のみがあつた。

しかし、それがトラップだつた。

この事を事前に予測していた束は、既に対策をとつていたのだ。

その対策とは…

事前にネットワークに”トロイの木馬”型のコンピュータ・ウイルスをバラ撒く事だつた。

ウイルスと言つても悪質な物ではない。
単純に言えば、

【”とある受信コード”を受け取ると流れてきた動画をメッセージ付きで録画する】

という物だ。

そして、言つまでもなくコードが発信されるのは、自動対応モードの束のラボの無人警備システムがアクティブになつた時で、流れ

る画像は無数の隠しカメラで自動撮影される”束のラボを蹂躪する SST”だ。

比喩として適切かどうかは分からぬが…

【古い方の”劇場版エヴァンゲリオン”における、”A-801発動後の戦自部隊によるネルフ内部の殺戮”】

を、もしネットワークを通じて流されたとしたら…
それを見た皆さん、どう思つだらうか…？

そして、動画と共に配信されたメッセージには、様々な言語で二つ
添えられていた。

【アメリカは世界支配をより盤石にする為、ISの独占を狙つてい
る。私のラボに侵入してきた日本の特殊部隊は、その手先】

配信された画像とメッセージはネットワークに繋がれたあらゆるコンピュータに記録され、世界中のそれを見た人々は、陰謀を”真実”として認識した。

実際、数時間後には【甘き死よ、来れ】がBGMで合成された画像
が世界中のあらゆる動画サイトにアップされたのだった…

そして、I.I.Iで臨むとは少し不思議に思わないだろうか？

何故、ラボに白騎士とトーラが残されていたのだろう？

白騎士が残されていた理由は単純だ。

白騎士は、既に”覚醒していた”束の【転移魔法】で運び出すには大きすぎた。

だから、テストデータや戦闘データの詰まつた”ISコア”だけ抜き出したのだ。

では、なぜデータがまつさらなブランク・コアと最低限の資料が残されていたのか？

それは、千冬の提言による物だった。

『新大陸の俗物どもは強欲だ。多少は”成果”を残しておかんと、いつまでもしつこく追い掛けてくるぞ？　なんせ先住民を大虐殺した後、土地と財産を根こそぎ奪つて”開拓”だとか平然と抜かす連中だからな』

しかし、I.I.Iで世界は…いや、日本は千冬や束の予想を斜め上45°。高度15・000mの判断を下した。

そり..

世界中の非難もなんのその。

要約すれば、

『 “白騎士事件”で第7艦隊に甚大な被害を受けた我々は、IS技術を独占する事により、初めて損失を補填できるのだよッー!! Ha - Ha - Ha!!!』

まさに加害者が被害者顔をしていた..

『 『 『自業自得だろ?がつー!! ボケナスー!!』』』

世界中の人間が、立場や社会的立ち位置を無視して上から下まで非難したが、

【自由と正義と民主主義は、アメリカにおいてのみ生産される】

ところづきけた理屈で、エラが出てくる前は世界中にトマホーク巡航ミサイルを撃ちまくった国に、何を言つても無駄である。

アメリカの強欲さと日本の不甲斐なさを正直甘く見ていた千冬と束は、この時だけは流石に打つ手は無かった。

そうしてゐる間に世界は、【たつた一機のI-Sとデータ】を巡り対立を深めていった…

そして、【ヤンキーがI-Sを戦力化して、世界の霸者になる前に”第三次世界大戦”も已む無し】と各国首脳が思い始めた頃…

『仕方ないよ…悔しいけど…哀しいけど…戦争を回避するには、これしか無いんだよ…』

世界各国に【束よりの福音】エヴァンジェリ・オブ・タバネ…

【”戦争で奪い合わなくとも済む数のコア”と米国が入手した物と同じデータ】

が贈られたのだった…

きっとと詰さとは、もう答えを見つけただろう…

世界を本当に歪めたのは誰なのか？

一体、誰が…何が悪かったのか？

かくて世界は良くも悪くも、HSにより作り替えられた…

歪んだ性差別意識や価値観を生み出しながら…

* * * * *

「ジュネーブ…いや、”国際HS委員会本部”ってのは不思議な場所だな…」

それが織斑一夏の最初の感想だった。

欧洲人達は、自分達の戦争で肥え太ったアメリカが自分達から”国際機関”を奪い去り、“連合国”という枠組みをでっち上げ、【拒否権】という戦勝国の奢りそのままのルールを押し付けた事を、決して忘れていた。

だからこそ、”束と千冬から拒否権を発動された” アメリカに国際IS委員会の設置を許はしなかつた。

そして、かつて【国際連盟】があつたジュネーブに国際IS委員会本部が設立可能だったのは、アメリカが脅迫じみた外交で弱者国から取り上げたISコアより、まだ欧州連合が保有するISコアの数がずっと勝っていたからだ。

ISの意味は、そこまで強くなっていた…

アメリカが出来たのは、ISの国際批准をアラスカ会議で決められた事と、手下の日本に治外法権である【IS学園】を誘致、設営できた事ぐらいだ。

いや、それすらも同盟という建前を持つ日本と英国の協力が無ければ叶わなかつたろう。

何しろアメリカは最初、自國に【IS学園】を設立しようとして欧洲連合並び国際IS委員会の猛反発に合い、断念してるので。

当たり前だが、国際IS委員会に連合国や拒否権等という傲慢な概念は存在しない。

「本当に……俺はこの場所をどう解釈すりやいいんだ……？」

一夏が困惑するのも無理は無かつた。

第一次世界大戦前の【国際連合】の建物を復元し、拡大したような
”国際I.S委員会本部”施設の正面：

噴水のある広場には、堂々と高さ10mは有るうつかという、

【偉大なる科学者、篠ノ之束博士】

と刻まれた銅像が聳え立つてゐるのだから…

日本……というより、束を”世界を歪めた魔女”と名指しするアメリカの影響下にある国にいると分かりにくいが、世界のある側面から見れば、束は【偉大な英雄】でもあるのだった…

例えば、【欧州連合】…

第二次世界大戦の勝者というだけで、戦後大きな顔と団体で、ジャニアニズム丸出しで世界は我が物と席巻していた、常に気に入らない”人工大陸国家”…

”アメリカの一極支配”という時代に止めを刺したという事実。

アメリカの強みは、圧倒的な経済力に裏打ちされた軍事力だ。

自らの利権の為には、大した証拠もない相手を”悪”に仕立て上げ、
平然とミサイルを叩きめるのが、アメリカの強みだった。

しかし、アメリカ絶対優位の【軍事的常識】は”白騎士事件”：

たつた1機のIISの前に、世界最強の筈だったヤンキー艦隊が為す
術もなく全滅するという無惨な結果に終わったあの事件：

この事実だけでも、戦後アメリカに煮え湯を飲まされ続けた欧州は、
溜飲を下げたに違いない。

ならば、そんな事実を生み出した束が英雄にならない訳がなかつた。

あるいは、【好戦的性差別主義者】：

それらは、【IISを扱えるのは女だけ】という、何の科学的根拠も
ない”迷信”を、眞実であり真理として狂信し、”女は男より全て
に勝る”という妄執に取り付かれ、無邪気に【女尊男卑】という宗
教的風潮をでっちあげた。

そんな者達にとり、束はまさに”性解放運動の救世主”であり、”
女性絶対優位の象徴”：【教祖】であった。

束がその事実を知った時、どれほど傷つき、取り乱したのかも知らずに…

「なあ、ブレハ…束ねえを本当に地球から追い出したのって、実はヤンキー達の敵意じやなくて、必要以上の好意…信奉や信仰じみた物だつたんじやないか？」

『かもしれません。マスターは、【男性差別主義者】達の事はよくご存知ですかね？』

物理的にも精神的にも右腕からの問いに一夏は頷き、

「まあね。『かつて女は男に蔑視されていたから、今度は男を虐げて当たり前、いや当然の権利』とか思つて性別闘争やつてる”性解放運動の革命家”氣取りの俗物だろ？』」

『そのような生き物です。そして、そのような生き物の集団の”シンボル”として、アーク・マスターは祭り上げられているのです…』

「……」

『アーク・マスターは、その現実を知った時にツワリの如く激しく嘔吐し、二日三晩食べ物を受け付けなくなつたそうです』

ブレイブハートはそこで一度言葉を切り、

『もし、お姉様とチフュが居なければ、アーク・マスターは餓死していただかもしません』

一瞬：

ほんの一瞬だけ一夏は泣きそつた表情になり、

「束ねえ…」

と、小さく呟いた…

『マスター、この白亜の御殿…』国際ISH委員会にも多かれ少なかれ、そのような妄執に取り付かれた者は大勢います。どうか努々忘れぬよう

「ああ…」

『そのような者達にとり、【男性なのにISHを動かせる】マスターは、この世界に存在を許されぬ者”なのですから』

「大丈夫さ。ブレハ…」

一夏は、憤怒の炎に似た鋭い眼光を灯しながら告げる。

「”歪み”が向ひから来てくれるなら、寧ろ好都合や。だつてそうだろ？」

口元に不敵な笑いを浮かべ、

「俺は全ての歪みを破壊する為に、ここにいるんだから、な……」

そして一夏は、本部へと向かつ。
そう、

【”アクシズ”を正式な工IS保有組織（準国家）と認める文章】

に調印する為に。

世界はまだ…

自分達の犯した過ちの意味を…

”代償”的重さを知らなかつた…

【正規版】第1話 & ロゴ・永世中立の地にて鬼は崇拜され、黒き魔獣は井

皆様、「」愛読ありがと「」やれこおした m (—) m

いや～、【正規版】にあると舞台になる”歪曲地球（笑）”の再設定からしなくちゃいけないから、時間がかかるかかる(へへ；

自分で書いのもなんだけど… なんてヒラリしないエピソードだろうか（汗）

ま、またまたにせりんな風変わりなIS一次創作があつてもいいのでは？って事で「」容赦を(へへへへ A

次回「」そは何とか【HIS学園】が舞台として出せたらと思つてます
が、果たしてどうなることか(へへへ)

それでは、また次回お会いしましょ(へへへ)

【正規版】第2話 "・黒き魔獣は、かつて兎が見た遠い日の夢をかく

皆様、おはようございます

先に書き始めた”すらつしゅ！”より、後から書き出した俺束が先に完成してびっくりな暮灘です（＾＾；

今回のHPC - デザイン

冒頭から序盤は、サブタイトル通り内容です。

中盤は、一夏とブレハの主従漫才…といふか夫婦漫才? (^ ^ ;

ラストは

再び登場のほーきちやん

君こそ”狂乱のヒロイン”に相応しい…なんて書いてて思つてしまつた暮灘が通ります

少しでも、
”俺束” 篇の【華やかな狂氣（？）】を感じて貰えれば

なあ～と(・_ゝ_・)A

こんなエピソードですが、楽しんでいただければ幸いです(○^ - ^o)

【正規版】第2話 “黒き魔獣は、かつて兎が見た遠い日の夢をかく

想像してみてくれ…

自分の発明が、願いや希望を詰めたISが…

自分の最も望まぬ報告へ世界を歪める“元凶”に仕立てあげられた
んだぜ？

憎まれるなり、まだいいさ…

俺はそれでも決して納得できないうけど…

篠ノ之博士は、『世界が私を憎むなら、それはじょつがない』と『
だって…

今にも泣きやうな顔をしていたよ…

だがな…

現在進行形でより醜く世界を歪めてる勢力に、自分が【教祖】だの
【シンボル】だと祭り上げられる…

まともな人間に、そんな仕打ちが耐えられると思うか？

それでも…

隠してゐるつもりの辛そうな顔で…

『世界を憎んでない』って…

『人を嫌いになれない』って…

涙を溜めた瞳で微笑むんだよ…

お前ら、篠ノ之博士の…

(束の…)

何を理解しようとしたんだ…?

テメエ勝手な理屈を振りかざし…

根拠の無い理論で世界を歪め…

例えば…

束ねえがいつどこで、

どんな資料で、

『IISが女しか乗れない』なんて言つた?

答えるよ…

誰か答えてみるよ…!!

感情論と笑いたければ笑え…

青臭い理想論と蔑みたければ、そつするがいいや…

だが、言つておく…

本来、IISは老若男女を問わない…

【人がいつか宇宙へ還る日】の為に…

その刻に必要になるだらうつて…

束ねえがコツコツ作つてた物だつたんだ…

それを…

それを…

「貴様らはアアアアアア――ツ――ツ――！」

【”アクシズ”特使「織斑一夏」の国際IJS委員会本部における調印記念演説】

より抜粋。

追記

この演説は、織斑特使の事前の強い希望により、世界中にネットワークを通じてリアルタイムに配信された。

後に何十年もの間、【とある少年の慟哭】というタイトルと共に繰り返しアップされ、人々の記憶に残り続ける事になる。

* * * * *

ジュネーブの国際IIS委員会本部を出て、ジャバウォックを展開。

そして空へ飛び上ると、国境など無視して一路【IIS学園】へと進路を向けた。

あえて世界中の人に映るように（ジャバウォックにしては）低速で、まるで風に乗るよつに…空に舞う大鷲のように悠々と飛翔する一夏…

その道中…

『マスター、やらかしてしまいましたね？』

「う…」

『世界中にガチの”漢哭き（おとこなき）”を恥ずかしげもなく披露するとは、誠に天晴れ』

「う…」

『もう今頃はマスターの泣き顔が、アチ「チの動画サイトにアップロードされ、世界中の人々が閲覧してることでしょう』

「うがあ～～～つ…！… 言つな… それ以上、俺を言葉の剃刀でいたぶるなあ～つ…！」

『私は淡々と事実のみを語つてるだけですが？』

「そつちの方が痛いわいつ…… なあ、ブレハさんや…… もしかして怒つてらっしゃこます?」

『まさか。あのへりこやらかさないと、寧ひらくマスターいらじくないと言こますか』

「……どうこつ意味かな?」

『人間は感情の動物……そして、ケダモノ・モードや下半身チートは人間離れしますから除外しますが、一部を除けばマスターは誰よりも”人らしい”』

「……ライ!」

ブレイブハートは、軽くスリーしながら微笑むようなイメージで、

『感情抑制に成功したマスターなんて、”クソクラエ”という事です』

「なあ、ジャバ……聞いてくれ。ブレハがマスターである筈の俺をイジメるんだ…… いつそ、この右腕を切り落としまおうか……?」

『私がいなくてジャバを”フル・スペック”で動かし、尚且つ制御しきれる自信があるのでしたら、お好きにどうぞ』

「『メンナサイ。モウ、イイマセン…』

『賢明な判断をしてくださつたこと、感謝します』

織斑一夏…

何故か、デバイスにイジられデバイスの尻に敷かれる男であった。

「俺、本当にブレハの”マスター”なのかな…たまに主従関係つて言葉の意味が、俺の寝てる間に変わったんじやないかって不安になるぜ…」

『[冗談はさておき]

「…“どこの誰”までが[冗談だったか、参考までに聞いていいか?】

『”言わぬが花”ですよ。マスター』

そして、プレイブハートはどこか微笑むような調子からふと硬質な口調に切り替わり、

『マスターも自覚なさつていたようですが、マスターが壇上で行なつた演説は【感情論】です。感情論だけでは、よほど偶発的因素が重なるか、あるいは何者かが周到に世論や民意を誘導しない限り、【世界規模の動き】にはなりません』

「…その通りだ」

『ですが、今はこれで十分です』

「えつ？」

『先程も申し上げましたが、人は感情の動物：マスターが感情論に徹した事により、逆に【理屈では制御できない心理】に、決して小さくない波紋を投げ掛けた事は事実』

「俺は、そんなつもりじゃ……」

『マスターはそれで良いのです。問題は世界中の”聞き手”が、どう”感じる”かですから……楔は、既に打ち込まれました』

「？？？」

『マスターもまさか、演説一つで変わる程、世界が小さく軽い物だとは思っていないでしょ？』

「そりゃ そりだが……」

『だから、今は眼前に広がる【普通】だと思い込んでいた世界】に疑問を持つきっかけになれば十分なのです』

「そういうもんなのか……？」

『そういう物です。人の心の奥底にこびりついた疑念は、どんなに小さくとも消滅より増大を好む物です』

そして、ブレイブハートはふと氣付いたよつこ、

『マスター、そろそろナーティングは終わりにしましょう。【HS 学園】が見えてきました』

「オーライ。進路そのまま、ピーソロー。各員、投錨準備ヨーイ」

『マスター、ジャバは船じゃありません』

ブレイブハート…

スルーとツッパリを使い分ける高度なナビゲイストである。

* * * * *

時節は少し遡る。

【HS学園】
篠ノ之簾私室

本来は二人部屋であるこの部屋を篠は一人で使っていた。

千冬の計らいなのが、実際一人の方が気楽というのもあるが…

「ふふふ…」

鎧どころか曇り一つ無い抜き身の四尺大太刀の刃をうつとりしながら嘲うルームメイトというのは、同居人にとってかなり精神衛生上よろしくない…というか下手をすればトラウマになりかねない。

「おつと…いかんいかん。今は、”紅椿”や”ハンプ”と【戦闘シミュレーション】を楽しんでいる場合では無かつたな…」

帰りのHSSSTの中で【一夏の演説】の情報を聞いた篠は、今がちようどその時間であることを思い出す。

そして、テレビのリモコンを手にとり電源を入れる。

直ぐにクリアな画像が現れ…

(一夏…)

久しぶりに見る【元幼馴染み】…今は義兄候補の男は、なるほど自分を少女から力任せに”女”にした時よりも、確かに凜々しく逞しくなつてるように見えた。

最初、筈はただ大人しく画像を見ていた。

だが…

『貴様らはアアアアアア――――ツ！――！』

一夏の血を吐くような絶叫が響いた時…

「アハハハハハハツ！！」

筈は、普段の無口な彼女しか知らないクラスメートが見たら腰を抜かしたまま後退りするような大声で笑いだしたのだった…

筈 side -

「アハハハハハハツ！！」

気が付くと私は大声で嘲っていた。

これが嘲わずにいられようかっ！！

「クク… ククク…」

(いい… 実にいいやつ…)

ああ、一夏…

お前は前より歪み、更に純粋になってしまったのだな…

歪んでもなお純粋…

(断じて呑つ…)

より深く歪んだから…、お前はなお純粋になつた…

純粋に”姉上”の事だけを考える…

それ以外は全て切り捨てる…

例え、地球人類の命全てを質にとられたとしても、何の躊躇いもなく姉上を選ぶ…

(それで呑みつ…)

ああ、一夏…
お前はそりでなくてはならぬ…

この世の大半を占める”つまらぬもの”に気をやつてはならぬのだ…

でなければ、

(姉上の“純度”が落ちてしまつではないか……)

嗚呼、一夏…

お前は私を貪る時、

(姉上と同じ血の匂いに欲情し、狂つたのだろう…)

ならば、今度はお前の肉鎗で…姉上を奥底まで味わい廻べした…
姉上の匂いと体液がこびりつき、髓まで染み込んだ鎗で私を貫いて
くれ…

(今度は、私が姉上の残り香を味わう番だらう…)

その代わり、私の肢体からだを好きに使つて構わぬぞ?

お前が望むなら、いくらでも淫らに咲き誇つてみせよう。

だから一夏…

(早く来てくれ…)

あの時のように私を乱暴に刺し貫き、姉上の匂いと姉上に注がる
んでる物を、私にも恵んでくれ……！

姊上、一夏、姊上、一夏、

どうか私の乾きを癒してくれっ！！

【正規版】第2話 & ロロ・黒き魔獣は、かつて兎が見た遠い田の夢をかく

皆様、『J愛読ありがと』やったよしたw(—)w

こっくんとほーちゃんが、再邂逅する直前までを描いたのが今回のHペンドード(へへ；

実は個人的には、『頭のこっくんの叫びはかなり気に入ったりして(：^__^A

青臭いし暑苦しいかもしけないけど、原作ではあまり見ない、『感情を爆発させ、想いのままを言葉にする一夏』って言つのを書くことができましたし(○^__^)o

そして、ラストの幕…

お姉ちゃん好も過ぎてかなりイッちゃつてます。

色々と隠しネタは有りますが、一つ言えるのは…

『原作のように、素直に一夏が好き』

とこりヒロインではないって事でしょうか？(^__^;)

いよいよ次回は、再び出番つゝ一夏と算…

何といつか…色々な意味で荒れそつた展開です（笑）

それではまた次回、お会いでできる事を祈つつ（o^-^-o）b

【正規版】第3話 "・黒の魔獣、HS学園に降り立ちし時、世界を動

皆様、こんばんわー

【HB】や【明久色々】に傾注してたら、俺束を1週間も放置してた…という現実に気付き、愕然とした暮灘です(^ ^ ;
いや、本当に読者の皆様、暮灘の自由過ぎる創作意欲と執筆に付き合わせてしまいますみません(—)

それでは、久しぶりの俺束更新です(o^ - ,) b

今回のエピソードは、いよいよ一夏がHS学園に”入城”するぐだりですね~

割と伏線と先の流れを示唆する会話が散りばめられ、そしてラストは”あのお方”が…

ちなみに一夏は相変わらずデバイスにはイジられます(笑)

というか、ブレハさんつてレイハさんから”株分け”されただけあつて、真面目な口調でかなりお茶目かも(^ ^ ;

b こんなHパワーですが、楽しんで頂ければ幸いです(○^-^)

【正規版】第3話 "・黒の魔獣、IIS学園に降り立ちし時、世界を鼓

IIS学園、校庭

その日、IIS学園は異常なまでの緊張に包まれていた。

当然であつた。

”彼”が禍々しい異形のIISと共に、IIS学園に降り立つとしていたのだから…

曰く…

今のところ確たる証拠はないが、各国の大型軍事衛星を片つ端から破壊して、その残骸を弾幕支援射撃にして地球上に正面突撃。

曰く…

地球に降り立つた瞬間に実質的に世界に宣戦布告。

曰く…

2000発以上のミサイルを、誰も見たことも強力なエネルギー弾の集中豪雨のような弾幕射撃で10秒足らずで全てを叩き落とし、更に恐らくは…ハッキングによりミサイルを発射した母機／母艦／基地を自爆させた。

特に最後のそれは、【たつた一度のサイバーテロで、最も多くの軍人を殺した事例】として、各国の軍事教練指南書に必ず残つてゆく内容だらう。

どれ一つをとっても、世界的な安全保障の最大級の脅威となりうるが、恐るべきはそれだけの一方的な破壊と殺戮を撒き散らしたのが、たつた1人の人間とたつた1騎のISという現実だ。そう、後に白騎士事件と対になり語り継がれる、

【黒騎士事変】

は、繰り返すが一人と一騎により引き起こされたのだ。

言い方を変えるなら、誰もが報復や逆襲を恐れて面と向かって言えないが、恐らくは”彼”は…

【人類史上最凶最悪のテロリスト】

として、世界史の暗黒面に名を残して行くだらう。

人の形をした災厄…

”織斑一夏”が、IS学園に降りようとしていたのだから…

『マスター』

「ブレハ、どうした？ 何か問題か？」

自らの為だけに製造した、少なくとも現在知りうる限り最強のIISである愛騎”ジャバウォック”を、心理的効果も考え、見せつけるようにあえてゆっくり降りる一夏に、相棒のブレイブハートは、

『やや、演出が足りませんね』

「演出不足？ まさか、この後に及んで24基の【ブラスター・ファンネル】飛ばして、HS学園校舎の解体ショーをしそ…とか言つなよ？」

『マスターのその私ですら予測不能な発想の柔軟さと突拍子の無さには、時折、呆れを通り越して敬意すら感じます』

「…微妙にバカにされてる気がするのね、気のせいだよな？」

『気のせいだと、ブレハはブレハは断言します』

「その口調やめい。何だか【アホ毛が量産型とのデータリンク・アンテナになつてゐ】つて噂の、”ちみつこい上位固体”を思い出す

『たまには愛りしをアピールを』

一夏は盛大なボケがまし機能までついた、右腕と融合する寄生型“高性能過ぎるデバイス”に少し疲れた顔をして、

「あのなあ……んで、お前の言つ演出つてのよ、なんなんだ？」

『はい。ここは希代の悪党らしく「ククク…俺に食い干切られる為に用意されたメスガキ、”肉便器候補性”どもの匂いがブンブンしやがるぜ…ギヤハハハハハ…！」くらうてみたらどうですか？』

わざわざ自分の声色までイミュレートするブレイブハートにて、一夏は軽い頭痛とマスターの権威が木つ葉微塵に吹き飛ぶのを感じながら…

「ブレハ…」

『はい？』

「お前は俺にどんなキャラを求めてるんだ？（汗）」

『恋りく結果は似たよつなものです』

「ライツー！」

『…マスター、お忘れですか？ わざわざHIS学園まで出向いた【本当の理由】を。まさか、本当に建前の”各国の最先端HISの性能調査”をやる気じやないでしょつね？』

「…わかつてゐるわ」

微かに苦虫を噛み潰したような顔をする一夏に、

『情はかけましょ。裏切らせない程度に。しかし、情けや遠慮は無用。必要な人材であるなら、徹底的に身も心もマスターがマスター（主人）となり“支配”するのです』

「…そうだな」

『それが【マスターの“最終目的”】を達成するのに必要なれば、躊躇する理由は有りません』

「古式豊かしい【男根主義^{フィロシズム}】の部分的復活…ってか？」

『マスターが“最終目的”を達成する為には、時にはあるいは人材においては、そういう手段も必要だという話です』

* * * * *

”ソレ”は、近くで見れば見るほど異様な風体のHISだった。

まず、全身漆黒に塗られた、ほぼパイロットの姿がみえないフルカバード・ボディというだけで十分な威圧感があるのだが…

まず目立つのは、アンロック・コニットの存在意義を全否定するよう両肩の付け根から伸びるフレキシブル・アームに連結された四枚の巨大なサークル・バインダー。

更に長く伸びる機械的で尖ったデザインの”尻尾”に、間違いない近く近距離戦において圧倒的な力を發揮しそうなことがデザインでわかる凶悪な鉤爪がついたアンバランスまでに大きな左腕…

とどめは、背骨に沿つように背負つた、並のE.Sの頭頂高程もありそうなバスター・ソード…

生徒の誰かが、「悪魔…」と呟き、別の誰かが「魔神…」と呟く。
更に曰く、【邪神】に【墮天使】…

一部に、「格好いい…」とか「なんて燃える厨二的なデザインなの…」という肯定的な意見もあったようだが…

【人類への敵意と戦闘力という単語を練り合わせて具現化させたようなE.S】に対する生徒達の反応は、概ねそんな感じだった。

少なくとも、一夏専用E.S【ジャバウオック】と正面から戦いたいと思つ生徒は、極めて少数派だろう。

そして、完全に校庭に降り立つと…

『ジャバを格納します』

「ああ」

”シュンツ”

と、ジャバウォックは量子化して”見えない状態”で一夏のガントレットに格納される。

そして現れた少年をみた生徒並びに教師の感想は…

（（（（やつぱり、凶悪なテロリストには見えないよねえ…）（）
（）

普通…というか、寧ろ真面目で精悍な印象の少年だった。

いや、ＴＶの演説を聞いた時からその印象はあった。

あの青臭い演説…いや、主張はどう考えても”ただの悪人”で出来る物じやない。

寧ろ、

【痛々しい程に純粹】

“棘の小さな世界への疑念”と同時に、
“今はまた”棘の印象を植え付けていた。

いや、それ以上に……

()()()()(なんかエッチっぽい)()()

という印象の方が更に強かつたが（笑）

一夏の名誉の為に言つておくが、実は露出は原作男子用IHSースト
より少ない。

下半身は、ブーツと一緒にになつたピッヂリとしたレザーパンツっぽい質感で、上半身は動きを妨げない為か？ かなり薄手で、実際に6パックに割れた腹筋がくつきり分かるぐらいだ。

そして、ハイネックで袖の部分が付け根から無いノースリーブというデザインだ。

とまあ、これじゃあわかりにくいだろうから……

皆さんは、アニメ【コード・ギアスR2】で、枢木スザクが”ナイト・オブ・ゼロ”になつた時のKMFスーツを覚えてるだろ？

あれからマントと手袋を取り去つて、真っ黒にしたと思えばいい。

まあ、厳密に言えば加えてアチコチがシースルーになつていて薄く

淡くと中の肌色が透けて見え、それが”えっち度（笑）”に磨きを掛けているのであるが。

”ざわつ…！”

一夏を校舎から校庭の片隅から固唾を飲んで見守っていた生徒や教師からざわめきが漏れた…

遠巻きに見ていた一団の一部が左右に割れ、そこから出来た道を一人の精悍な印象の女性が、まるで”モーゼの十戒”を彷彿させるように悠然と歩いてくる…

スーツを隙無く着こなし、不思議と一夏と似た印象のその女性…

そう、彼女こそ【モンド・グロッソ】を連霸するといつ偉業を、波乱一つなく成し遂げた名実共に現在、世界最強の”ブリュンヒルデ”…

”織斑千冬”だつ…！

”世界的な英雄”である姉と…

”世界中を敵に回した”弟の…

邂逅が、IIS学園で果たされよつとしていた…

【正規版】第3話 "・黒の魔獣、HS学園に降り立つ時、世界を翻

皆様、『J愛読ありがと』やったました m(—)m

久しぶりの投稿に、文章が錆びれてないか心配な暮灘です (^ ^ ;

今回は、いつくん+ブレハのパートですが如何だつたでしょうか？

正直、あのメール投稿不能騒ぎでテンショントガリまくりで、特に執筆中だつた…そして、執筆にかなり手間とテンションがかかる”俺束（手間）”と”すらつしゅー（テンション）”がダメージを受け、筆が全然進まなくなってしましました（汗）

よつやく、俺束が1話書ける程度にモチベーションが回復しましたので早速、執筆してみました(^ー^;)

前ほど高速連日更新は難しいかもしれません、これからも『J愛読頂ければ幸いです m(—)m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6747x/>

俺のたばねえがこんなに可愛い...に決まってるだろ？（【体験版】+【正規版】）

2011年11月9日21時59分発行